

島根県中近世城館跡分布調査報告書

<第2集>

出雲・隠岐の城館跡



平成10(1998)年3月

島根県教育委員会

島根県中近世城館跡分布調査報告書

<第2集>

出雲・隠岐の城館跡

平成10（1998）年3月

島根県教育委員会

# 序

鳥根県教育委員会では、鳥根県内の中近世城館跡の把握のため、平成5年度から国庫補助を受けて分布調査を実施してまいりました。本書は、そのうち、出雲地方と隠岐地方についてまとめた報告書です。

中世、とりわけ戦国期の出雲地方には、陰陽十一州の大守と呼ばれ山陰、山陽各地へ勢力を伸ばした尼子経久をはじめとする尼子一族の領国支配と、その尼子氏と覇権を争った山陽の大内氏、毛利氏との激しい戦乱を物語る数多くの城砦が築かれておりました。特に、難攻不落を誇り尼子氏の本拠であった富田城や、その有力家臣の居城として防衛拠点に配置された白鹿城、三沢城、三刀屋城など、のちに尼子十旗と称された出雲国内十箇所の城砦は今日でも人々に広く知られているところです。

一方、後鳥羽上皇、後醍醐天皇をはじめ国政における有力者が御流された隠岐地方にも、その激動の歴史を物語る数々の城砦、館が知られています。

近世になると、出雲国に松江藩が置かれ、その姿を今に伝える松江城が築かれました。

しかし、これらの城館跡の内、おおよその様子がわかるものは、史跡に指定されている富田城跡、松江城などわずかなものに限られていました。

この度の分布調査においては、約600の城館跡が確認されるとともに、今までに知られていなかった郭や堀切など城館の詳しい内容を把握することができました。この出雲、隠岐地方の城館跡分布調査の成果が、中近世における地域史の解明と埋蔵文化財の保護・活用に役立てば幸いです。

最後に、調査員の方々と指導を得ました諸先生には、急峻な山々に築かれた数多くの城館跡を精力的に踏査いただきました。その苦勞に対し、心から感謝いたします。また、文化庁並びに関係市町村教育員会の各位に、指導、協力を得ましたことを厚くお礼申し上げます。

平成10年3月

鳥根県教育委員会教育長  
江口博晴

# 例 言

- 1、本書は島根県が国庫補助金の交付を受けて、平成5年度から平成9年度までの5カ年計画で実施した県内中近世城館跡分布調査のうち、出雲・隠岐部に関する分布調査の報告書〈第2集出雲、隠岐の城館跡〉である。(参考：第1集 石見の城館跡)
- 2、調査は、島根県教育委員会が主体となり、文化庁等の指導を受けながら、県内各地域ごとに委嘱した調査員を中心に、市町村教育委員会等の協力を得て実施した。
- 3、本書は、本文及び城館跡分布図、城館跡一覧、主要城館跡の解説・略測図、城館跡関連の文献一覧で構成した。
- 4、本書の編集は、提出された調査カードをもとに、調査指導者、調査員等の協力を得ながら、事務局(島根県教育庁文化財課 埋蔵文化財調査センター 主事 錦田剛志)が行なった。
- 5、本書の執筆は、提出された調査カードをもとに、委嘱調査員のうち3名(今岡、寺井、山根)と事務局担当者(錦田)が中心となって行い、必要な箇所には文責を明示した。
- 6、本書に掲載する城館跡分布図は、国土地理院長の承認を得て同院発行の2万5千分の1の地形図を3万5千分の1に縮小して複製のうえ作成してある。(承認番号)平9中複、第447号  
なお、図中において遺跡の箇所は赤色の線で表現しているが、これは、遺跡の明確な範囲を表したのではなく、現時点における現地表面観察に基づいたおよその位置を表したものである。
- 7、本書に掲載する城館跡一覧は、提出された調査カードの記載内容に依拠し、事務局担当者(錦田)の責任で作成した。
- 8、本書に掲載する主要城館跡の略測図は、各調査員から提出された図面をもとに、事務局が修正及び浄書を行なって掲載した。なお、各調査員から提出された原図を重視し、原則的には極端な改変、表現方法の統一は行っていない。
- 9、本書の第Ⅱ章に掲載する城館跡関連の文献一覧の作成については、島根県教育庁文化課(古代文化センター)佐伯徳哉氏の協力を得た。
- 10、本書の編集に際し、カード整理、一覧表作成、分布図及び略測図作成について、以下の方々の協力を得た。  
整理作業員 吉岡朋子 守屋かおる 松野美小恵
- 11、本書の記載内容については、出来る限り正確を期したが、今後さらに詳細な確認が必要と思われる。不明な点があれば、島根県教育委員会文化財課へ照会いただきたい。なお、本書で使用した学術的な専門用語については、各調査員の姿勢を重視し、基本的には統一していない。
- 12、本調査により作成された調査カード、写真、略測図等は、島根県教育庁文化財課(埋蔵文化財調査センター)に保管してある。



# 目 次

序 島根県教育委員会教育長 江 口 博 晴  
例 言

## 第Ⅰ章 調査の目的と経緯

## 第Ⅱ章 調査の成果

1 現地踏査の概要 .....	10
2 城館跡分布図 .....	11
3 城館跡一覧 .....	115
4 主要城館跡の解説・略測図 .....	142
5 城館跡関連史料一覧 .....	289

## 第Ⅲ章 総 括「出雲、隠岐の城館跡」

中世出雲国・隠岐国における城館成立の歴史的背景 .....	302
出雲・隠岐地方の中近世城館跡の分布とその特徴について .....	307
普請未成の山城について .....	315
城館調査を終えて .....	321

付編 主要参考文献一覧



# 第 I 章 調査の目的と経緯

# 第Ⅰ章 調査の目的と経緯

## 1 調査の目的

近年の島根県における開発事業の進展は目覚ましいものがあり、これに伴って破壊の危機に瀕する遺跡が急増している。丘陵や山間部に構築されることが多い中世（一部近世を含む）の城館関連の遺跡もその例外ではなく、開発の波にさらされる事態が生じつつある。

また一方で、住民の歴史、特に郷土史への理解と関心が高まりを見せる中で、中近世の地方史を端的に語る遺跡として、城館跡を歴史公園等として保護、活用する事例も数を増しつつある。

こうした状況を鑑み、これまで総合的な調査研究はほとんど手付かずであった県内に多数残存する中近世の城館跡について、その所在、遺構の状況を早急に確認し今後の当該遺跡の保護・活用と開発との適正な調整を図る基礎的な資料を得るため詳細分布調査（悉皆調査）を国の補助事業として実施することにした。

## 2 調査対象

島根県内の中世を中心とする時期（一部近世も含める）に築かれた城館に関連する遺跡とする。

## 3 調査計画と経過

調査を開始した平成5年度当初は、平成7年度までの3カ年で終了する計画であった。しかし、調査の進捗に連れ確認される城館関連の遺跡数が予想を大幅に上回ることとなった。そこで、平成7年度当初において、当初の3カ年計画を見直し、2カ年延長した以下の5カ年にわたる全体計画で実施している。したがって、本書の刊行をもって、今回の調査は終了したこととなる。

### <平成5年度>

- ア 事業内容 文献調査・地図調査・現地踏査（石見部を重点的に実施）
- イ 実施期間 平成5年5月31日～平成6年3月31日
- ウ 事業費 3,000,200円（うち国庫補助金の額1,500,000円）

### <平成6年度>

- ア 事業内容 文献調査・地図調査・現地踏査（出雲部、隠岐部を重点的に実施）
- イ 実施期間 平成6年7月31日～平成7年3月31日
- ウ 事業費 3,000,016円（うち国庫補助金の額1,500,000円）

### <平成7年度>

- ア 事業内容 文献調査・地図調査・現地踏査（県内の調査未了地域を重点的に実施）
- イ 実施期間 平成7年7月3日～平成8年3月31日
- ウ 事業費 2,700,196円（うち国庫補助金の額1,350,000円）

### <平成8年度>

- ア 事業内容 文献調査・地図調査・現地踏査（石見部の重要地域を重点的に実施）  
報告書作成（<第1集>「石見の城館跡」）



- イ 実施期間 平成8年6月10日～平成9年3月31日
- ウ 事業費 4,000,008円（うち国庫補助金の額2,000,000円）

<平成9年度>

- ア 事業内容 文献調査・地図調査・現地踏査（出雲部、隠岐部の重要地域を重点的に実施）  
報告書作成（<第2集>「出雲、隠岐の城館跡」）

- イ 実施期間 平成9年6月10日～平成10年3月31日
- ウ 事業費 4,000,000円（うち国庫補助金の額2,000,000円）

#### 4 調査体制

調査主体は、島根県教育委員会とし、事務局を島根県教育庁文化財課（埋蔵文化財調査センター）が努めた。調査にあたっては、文化庁等関連諸機関の指導を仰ぎ、県内各市町村教育委員会の協力を得て、県内在住の委嘱調査員及び文化財課（埋蔵文化財調査センター）職員がこれに従事した。各年度の調査体制の詳細は以下のとおりである。（以下、敬称を略し、職名は当時のものを記す。）

<平成5年度>

- ア 調査指導 井上寛司（島根大学法文学部教授）、千田嘉博（国立歴史民俗博物館助手）
- イ 調査員 石井 悠、稲田 信、今岡 稔、岩崎 健、駒場春樹、遠藤浩巳、大森隆雄、岡 一宏、片岡詩子、嘉戸 理、金築 基、兼 常磐、吉川 正、木原 光、桑原詔一、佐伯充男、佐々本芳資郎、杉原清一、隅田正三、寺井 毅、中田健一、永嶺常磐、西尾良一、西田 保、日高 亘、藤原友子、松山智弘、的場幸雄、三宅博士、宮本徳昭、森口正和、山崎祐二、山根正明、渡辺友千代（委嘱者34名）  
文化課職員（調査担当 埋蔵文化財調査センター企画調整係主事 佐伯徳哉）
- ウ 事務局 教育庁文化課・埋蔵文化財調査センター  
広沢卓嗣（課長）、勝部 昭（センター長）、山根成二（課長補佐）久家儀夫（課長補佐）、中島 哲（文化係長）、工藤直樹（企画調整係主事）、佐伯徳哉（同主事）
- エ 調査協力 県内各市町村教育委員会

<平成6年度>

- ア 調査指導 特に無し
- イ 調査員 石井 悠、稲田 信、今岡 稔、上田律夫、駒場春樹、遠藤浩巳、大森隆雄、岡 一宏、片岡詩子、嘉戸 理、門崎 清、金築 基、兼 常磐、吉川 正、木原 光、佐伯充男、榊原信也、佐々木功享、佐々本芳資郎、杉原清一、隅田正三、田中迪亮、田部重夫、常角 敏、寺井 毅、永井宏昌、中田健一、永嶺常磐、西尾良一、日高 亘、藤原友子、松山智弘、的場幸雄、三浦充博、三宅博士、宮本徳昭、村尾秀信、森口正和、柳井雅行、八幡賢一、山尾一郎、山崎 誠、山崎祐二、山根正明、柚原恒平、渡辺友千代（委嘱者46名）  
文化課職員（調査担当 埋蔵文化財調査センター企画調整係主事 錦田剛志）
- ウ 事務局 教育庁文化課・埋蔵文化財調査センター  
広沢卓嗣（課長）、勝部 昭（センター長）、野村純一（課長補佐）佐伯善治（課長補佐）、中島 哲（文化係長）、工藤直樹（企画調整係主事）、錦田剛志（同主事）

エ 調査協力 県内各市町村教育委員会、佐伯徳哉（鳥根県古代文化センター）

<平成7年度>

ア 調査指導 伊藤正義（文化庁記念物課史跡部門文化財調査官）

イ 調査員 石井 悠、伊藤尚史、稲田 信、今岡 稔、上田律夫、駒場春樹、遠藤浩巳、大森隆雄、岡 一宏、片岡詩子、嘉戸 理、門崎 清、金築 基、兼 常磐、吉川 正、木原 光、佐伯充男、榊原信也、佐々木功享、佐々本芳資郎、杉原清一、隅田正三、田中迪亮、田部重夫、常角 敏、寺井 毅、永井宏昌、中田健一、永嶺常磐、西尾良一、日高 亘、藤原友子、松山智弘、的場幸雄、三浦充博、三宅博士、宮本徳昭、村尾秀信、森口正和、柳井雅行、八幡賢一、山尾一郎、山崎 誠、山崎祐二、山根正明、柚原恒平、渡辺友千代（委嘱者47名）

文化財課職員（調査担当 埋蔵文化財調査センター企画調整係 主事 錦田剛志）

ウ 事務局 教育庁文化財課・埋蔵文化財調査センター

勝部 昭（課長）、宍道正年（センター長）、森山洋光（課長補佐）佐伯善治（課長補佐）、西山 彰（文化財係長）、澁谷昌宏（企画調整係主事）、錦田剛志（同主事）

エ 調査協力 県内各市町村教育委員会、佐伯徳哉（鳥根県古代文化センター）

<平成8年度>

ア 調査指導 福島克彦（京都府乙訓郡大山崎町 大山崎町歴史資料館学芸員）

イ 調査員 石井 悠、伊藤尚史、稲田 信、今岡 稔、上田律夫、駒場春樹、遠藤浩巳、大森隆雄、片岡詩子、嘉戸 理、門崎 清、金築 基、兼 常磐、吉川 正、木原 光、榊原信也、佐々木功享、佐々本芳資郎、杉原清一、隅田正三、田中迪亮、田部重夫、常角 敏、寺井 毅、永井宏昌、中田健一、永嶺常磐、西尾良一、日高 亘、藤原友子、松山智弘、的場幸雄、三浦充博、三宅博士、宮本徳昭、村尾秀信、森口正和、柳井雅行、八幡賢一、山尾一郎、山崎 誠、山崎祐二、山根正明、柚原恒平、渡辺友千代（委嘱者45名）

文化財課職員（調査担当 埋蔵文化財調査センター企画調整係 主事 錦田剛志）

ウ 事務局 教育庁文化財課・埋蔵文化財調査センター

勝部 昭（課長）、宍道正年（センター長）、森山洋光（課長補佐）、古崎蔵治（課長補佐）、西山 彰（文化財係長）、澁谷昌宏（企画調整係主事）、錦田剛志（同主事）

エ 調査協力 県内各市町村教育委員会、佐伯徳哉（鳥根県古代文化センター）

<平成9年度>

ア 調査指導 特に無し

イ 調査員 石井 悠、稲田 信、今岡 稔、上田律夫、大森隆雄、片岡詩子、金築 基、吉川 正、榊原信也、杉原清一、田中迪亮、常角 敏、寺井 毅、永井宏昌、西尾良一、藤原友子、松山智弘、三宅博士、村尾秀信、八幡賢一、山尾一郎、山崎 誠、山崎祐二、山根正明、柚原恒平（委嘱者25名）

文化財課職員（調査担当 埋蔵文化財調査センター企画調整係 主事 錦田剛志）

ウ 事務局 教育庁文化財課・埋蔵文化財調査センター

勝部 昭（課長）、宍道正年（センター長）、島地徳郎（課長補佐）、古崎蔵治（課長補佐）、西山 彰（文化財係長）、澁谷昌宏（企画調整係主事）、錦田剛志（同主事）

エ 調査協力 県内各市町村教育委員会、佐伯徳哉（島根県古代文化センター）  
高田 徹、三島正之

## 5 調査内容と方法

調査内容と方法は、本調査の第一義的な目標である、未確認の城館跡を発見すること、城館跡の所在と立地点を明確に把握すること、そして城館跡を取り巻く歴史的背景を把握することを主眼に、①城館に関連する文献及び地図類の調査 ②城館跡もしくは関連遺跡、伝承地等の現地踏査と写真撮影、略測図による記録化（調査カードの作成） ③分布図、略測図（縄張図）、一覧表からなる報告書の作成 の3点に絞り込んだ。このうち、②については委嘱した各調査員が次に示す「島根県中近世城館跡分布調査カード」を作成することで主体的に実施し、①と③については、提出された調査カードをもとに事務局担当者が一部調査員等の協力を得て主体的に実施した。

島 根 県

中近世城館跡分布調査カード 1

整理番号		遺跡地図番号	新	旧	史	古文書	
名称		(別称)					
所在	現在:	市・郡	町・村	大字	料	古記録	
	旧:	市・郡	町・村	大字			
遺構の状態	現状	ア 占地状況	山頂、山腹、山麓、台地、平地、その他			名	地誌
		イ 現況	山林、水田、畑、社寺境内、宅地、その他				
		ウ 所有関係	国有地、公有地、社寺有地、個人有地、他、				
	保存度	エ 残有状況	良、やや良、不良、消滅			その他	遺物
		オ 史跡他指定	国、県、市、町、村、 : 史跡、その他				
		カ 法律条例との関係	都市計画法 (市街化区域、市街化調整区域)				
キ 管理状況				伝承	伝承者氏名:		
ク 遺構	郭・帯郭・腰郭・土塁・石垣・堀切・竪堀 連続竪堀・横堀・虎口・馬出・櫓台						
発掘	期間:						
	理由:						
研究・報告書	執筆者	題名	発行所掲載紙	備考	歴	史	
							1、築城者
						2、築城時期	
						3、存続期間	
						4、主要居住者	

島 根 県

中近世城館跡分布調査カード 2

歴	5、主な事件・落城・廃城など	歴史的状況	3、農業・手工業関係
	6、築城から廃城まで城館に加えられた変化		4、集落との関係
歴史的状況	1、交通路	性 格	5、宗教・信仰関係
	2、商業関係		6、古戦場 (首塚など)
			7、関連する城館
			恒久的城館・臨時城砦



島 根 県

中近世城館跡分布調査カード3

	山・谷名	大 字	小 字	小字名内の呼称	位置図:(地図張付)
地 名					
写真:					

島 根 県

中近世城館跡分布調査カード4

略図:(所見)	調査者氏名
比高差:            m	



## 第Ⅱ章 調査の成果

# 1 現地踏査の概要

この度出雲・隠岐部において調査対象となった城館跡数は、総計600カ所、うち未踏査及び詳細が不明な城館跡数は93カ所、既に大部分もしくは全てが破壊されるなどして消滅した城館跡数は37ヶ所であった。市町村別の調査対象となった城館跡数の内訳は次表の通りである。なお、下表の数値は、複数の市町村にまたがって立地する城館跡について、各市町村ごとに計上した数値である。

## 出雲・隠岐地方市町村別調査対象城館数一覧表

略号	市 町 村 名	調査対象 城館跡数	調査対象城館数内訳		
			遺構現存遺跡	未踏査及び不明箇所	消 滅 箇 所
ア	安 来 市	19	14	5	0
イ	伯 太 町	28	23	4	1
ウ	広 瀬 町	31	26	2	3
エ	松 江 市	42	35	5	2
オ	東 出 雲 町	8	6	2	0
カ	八 雲 村	8	6	1	1
キ	玉 湯 町	9	7	2	0
ク	宍 道 町	14	11	2	1
ケ	美 保 関 町	8	6	2	0
コ	島 根 町	8	3	5	0
サ	鹿 島 町	10	5	2	3
シ	八 束 町	1	1	0	0
ス	横 田 町	11	7	3	1
セ	仁 多 町	16	14	0	2
ソ	大 東 町	46	40	6	0
タ	加 茂 町	24	15	6	3
チ	木 次 町	16	8	4	4
ツ	三 刀 屋 町	56	29	24	3
テ	掛 合 町	8	5	3	0
ト	頓 原 町	50	50	0	0
ナ	赤 来 町	14	12	1	1
ニ	吉 田 村	5	5	0	0
ヌ	出 雲 市	25	24	0	1
ネ	平 田 市	46	33	7	6
ノ	斐 川 町	17	15	0	2
ハ	大 社 町	4	2	2	0
ヒ	佐 田 町	46	46	0	0
フ	湖 陵 町	5	5	0	0
ヘ	多 伎 町	6	4	0	2
ホ	西 郷 町	6	5	1	0
マ	布 施 村	0	0	0	0
ミ	都 万 村	4	4	0	0
ム	五 箇 村	5	3	1	1
メ	西 ノ 島 町	3	1	2	0
モ	知 夫 村	0	0	0	0
ヤ	海 士 町	1	1	0	0
	合 計	600	471	92	37



## 2 城館跡分布図

- 1 調査対象とした全ての箇所を、調査員から提出された調査カードをもとに地図上に示した。この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1の地形図を3万5千分の1に縮小複製したものである。(承認番号 平9中復、第447号)
- 2 島根県東部の出雲・隠岐地方全域に該当する地図は全52枚からなり、これらに下図のとおり便宜上の1～51の番号を付け、その番号と図幅名は次頁以下の分布図右上に示した。
- 3 遺跡番号は、頭に各市町村に宛がったア～ヤの略号(前頁:城館数一覧表を参照)を付し、続いて市町村ごとの一連番号を付けた。(例)安来市:ア1、ア2、ア3…

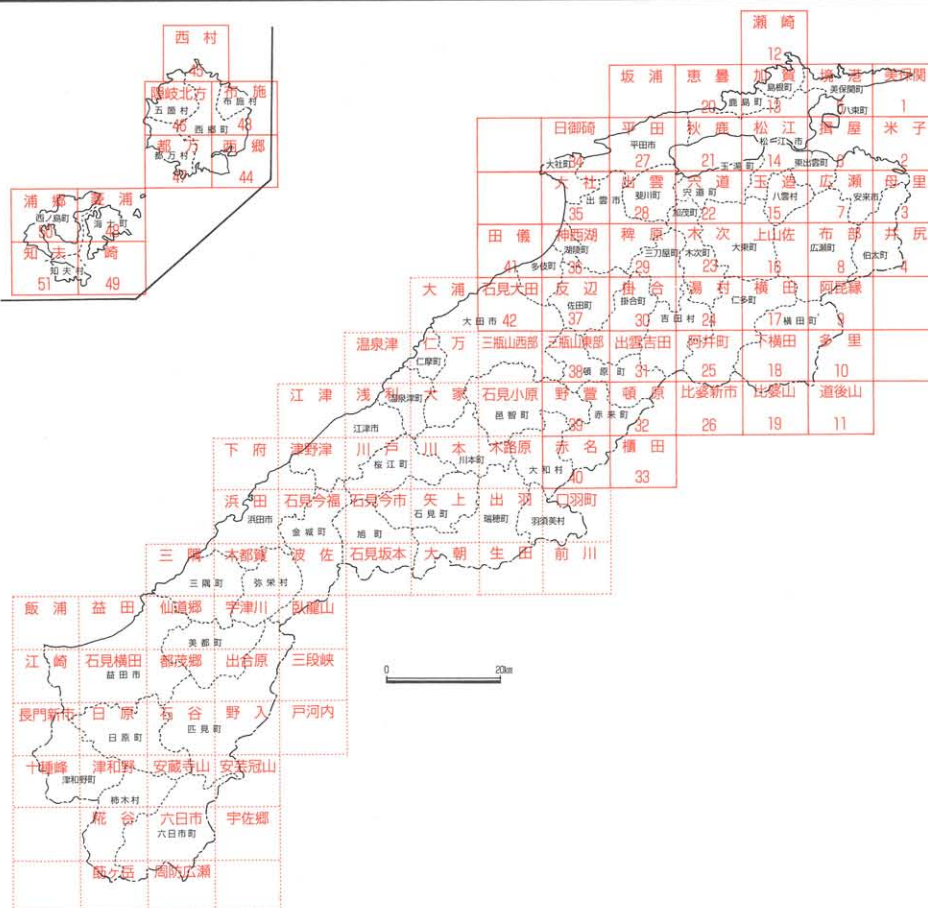
この番号は、本書の第Ⅱ章「3 城館跡一覧」「4 主要城館跡の解説・略測図」と共通する。

なお、城館跡の位置が、複数の市町村に含まれる場合は、それぞれの市町村ごとに番号を付けた。

- 4 遺跡の位置は、赤色で表示しているが、これは遺跡の明確な範囲を表したのではなく、現時点におけるおよその位置を示したものである。表示方法は以下のとおりである。

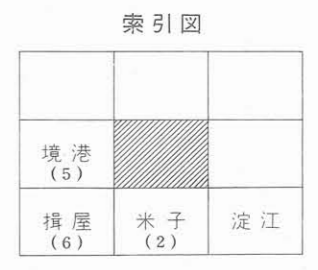
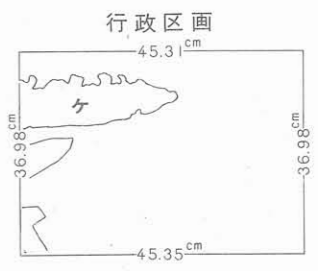
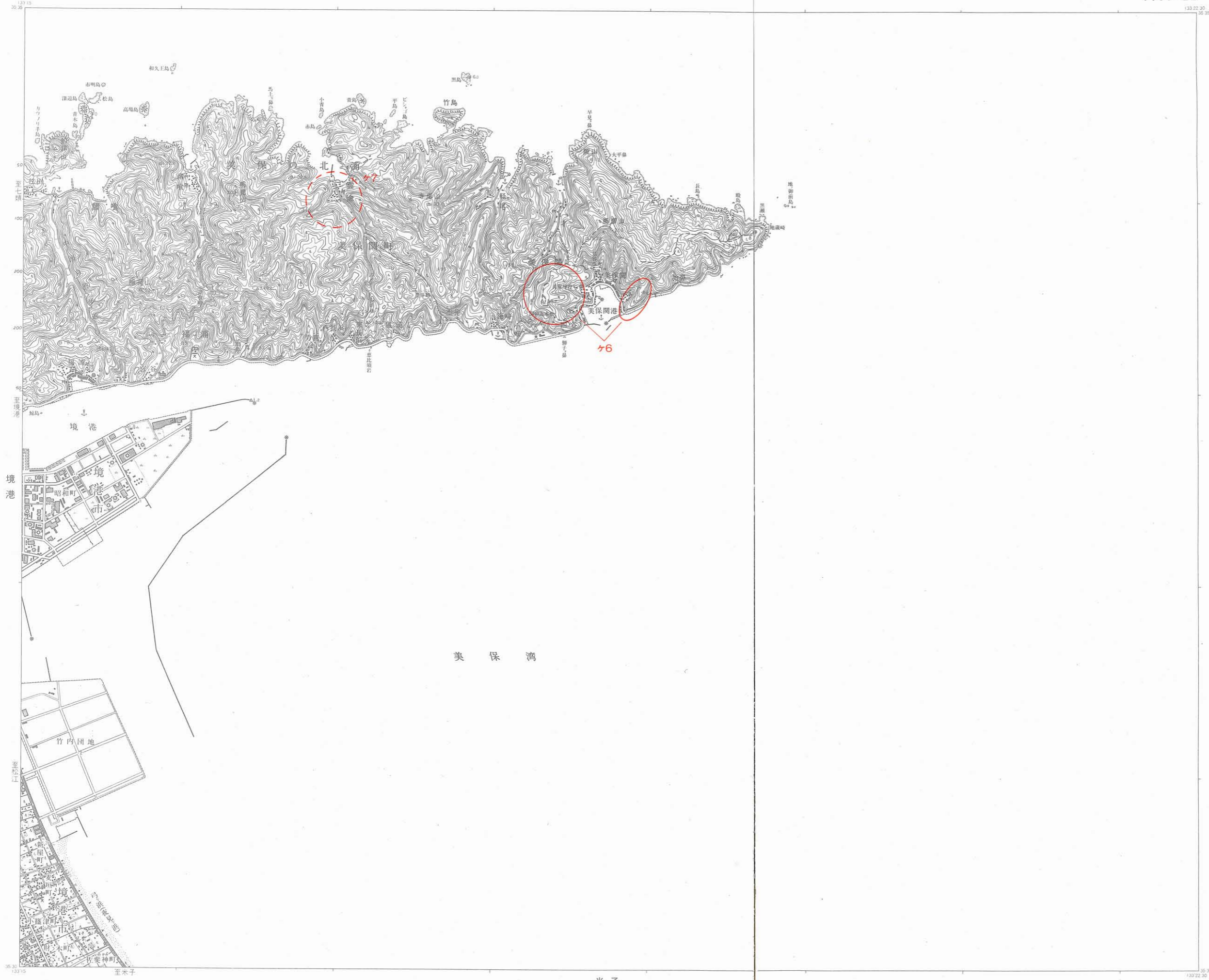
### <凡例>

- : 明確な遺構が認められ、現存する遺跡の箇所
- (点線) : 未踏査及び不明箇所(遺構が不明確な箇所、伝承のみ残存する箇所等)
- × : 消滅箇所(かつて遺構が存在したが、大部分もしくは全てが破壊された箇所)



# 1. 美保関

ケ. 八束郡美保関町



1:35000





# 米子

美保関

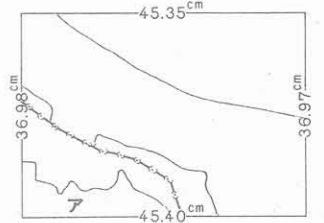
# 2. 米子

## ア. 安来市

美保湾



行政区画



索引図

境港 (5)	美保関 (1)	
揖屋 (6)		淀江
広瀬 (7)	母里 (3)	伯耆溝口

1:35000





# 母里

米子

## 3. 母里

- ア. 安来市
- イ. 能義郡伯太町



索引図

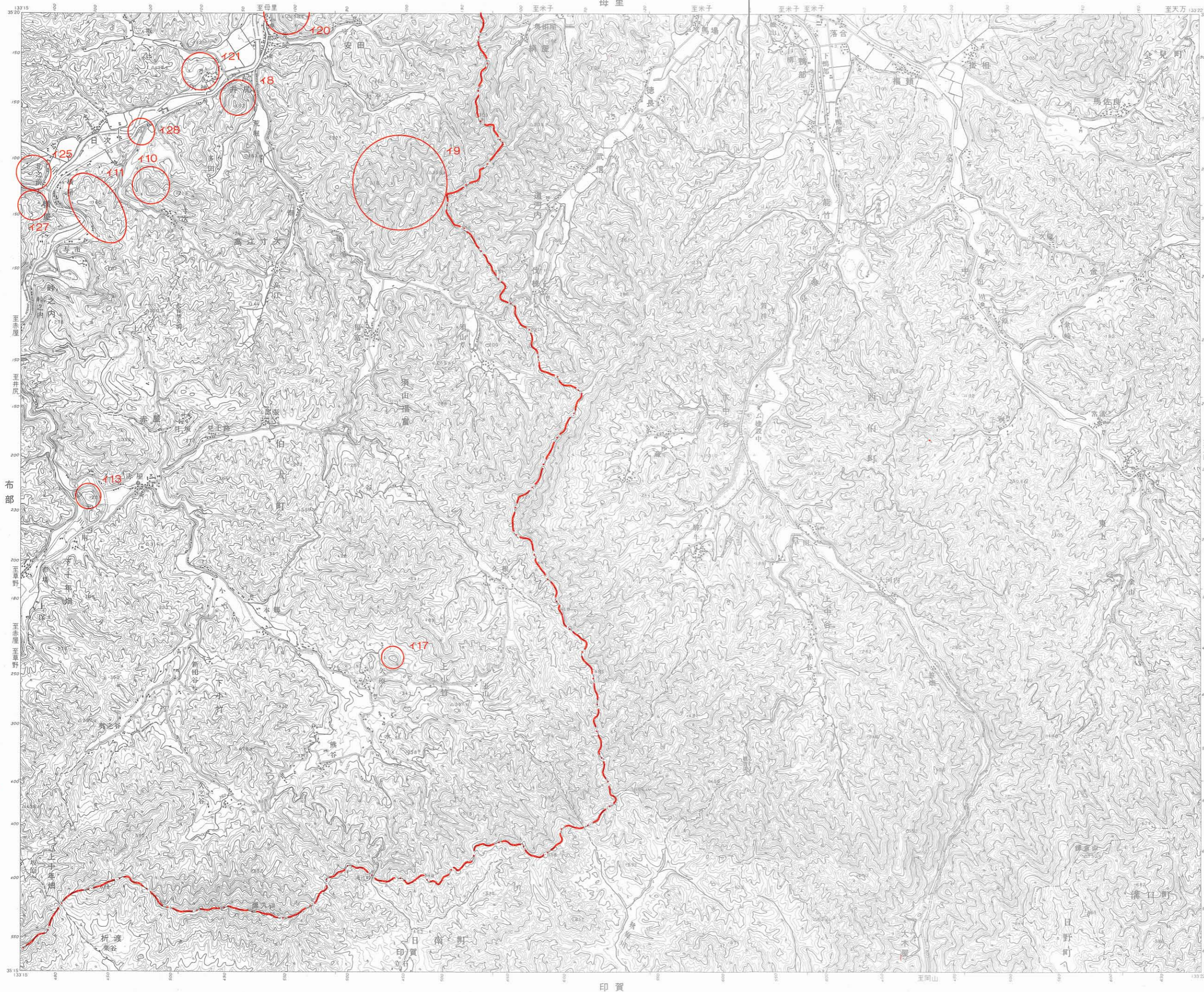
揖屋 (6)	米子 (2)	淀江
広瀬 (7)		伯耆溝口
布部 (8)	井尻 (4)	江尾





# 4. 井 尻

## 1. 能義郡伯太町



索引図

広瀬 (7)	母里 (3)	伯耆溝口
布部 (8)		江尾
阿毘縁 (9)	印賀	根雨

1:35000

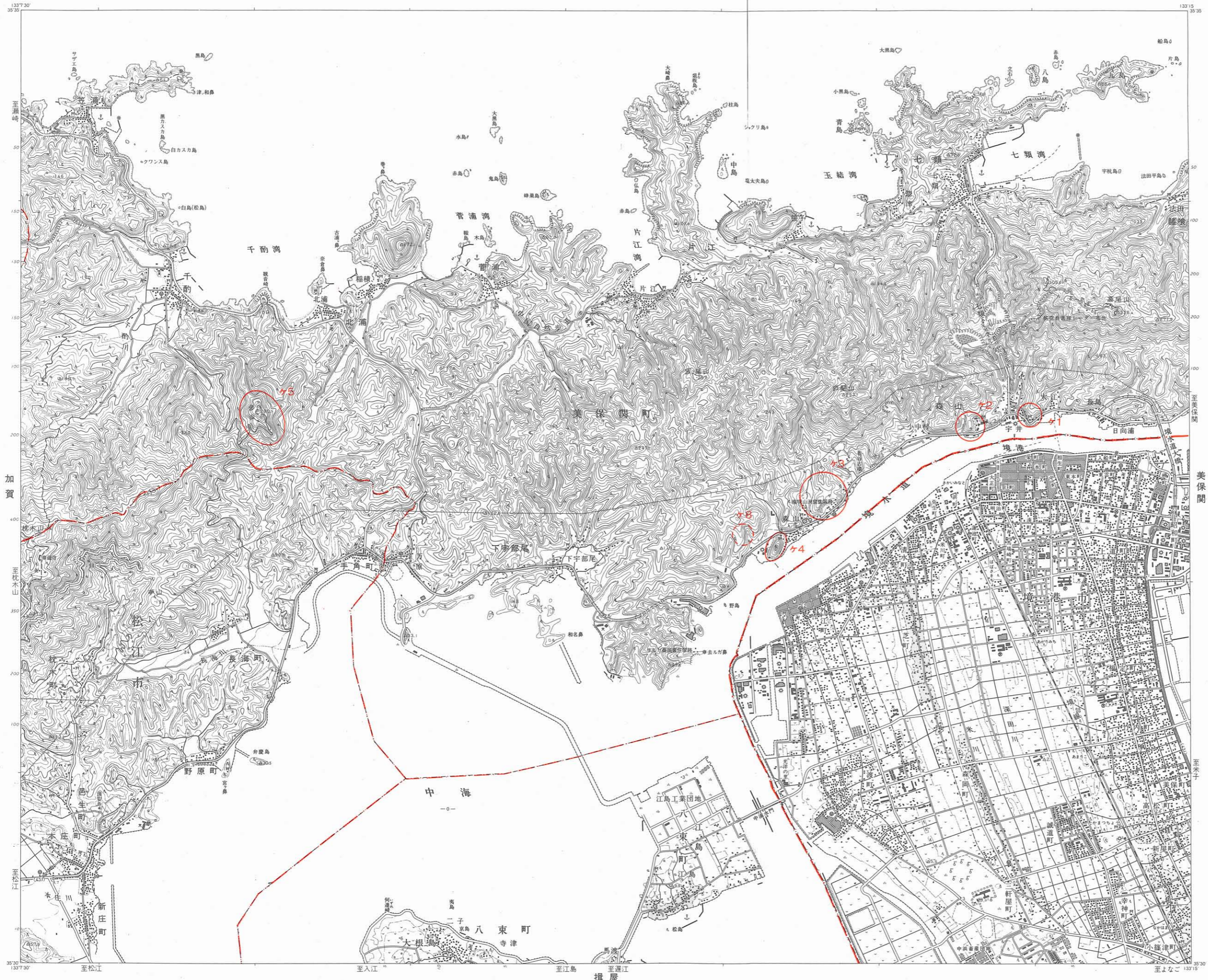




# 境 港

## 5. 境 港

- エ. 松江市
- ケ. 八束郡美保関町
- コ. 八束郡島根町
- シ. 八束郡八束町



索引図 (Index Map)

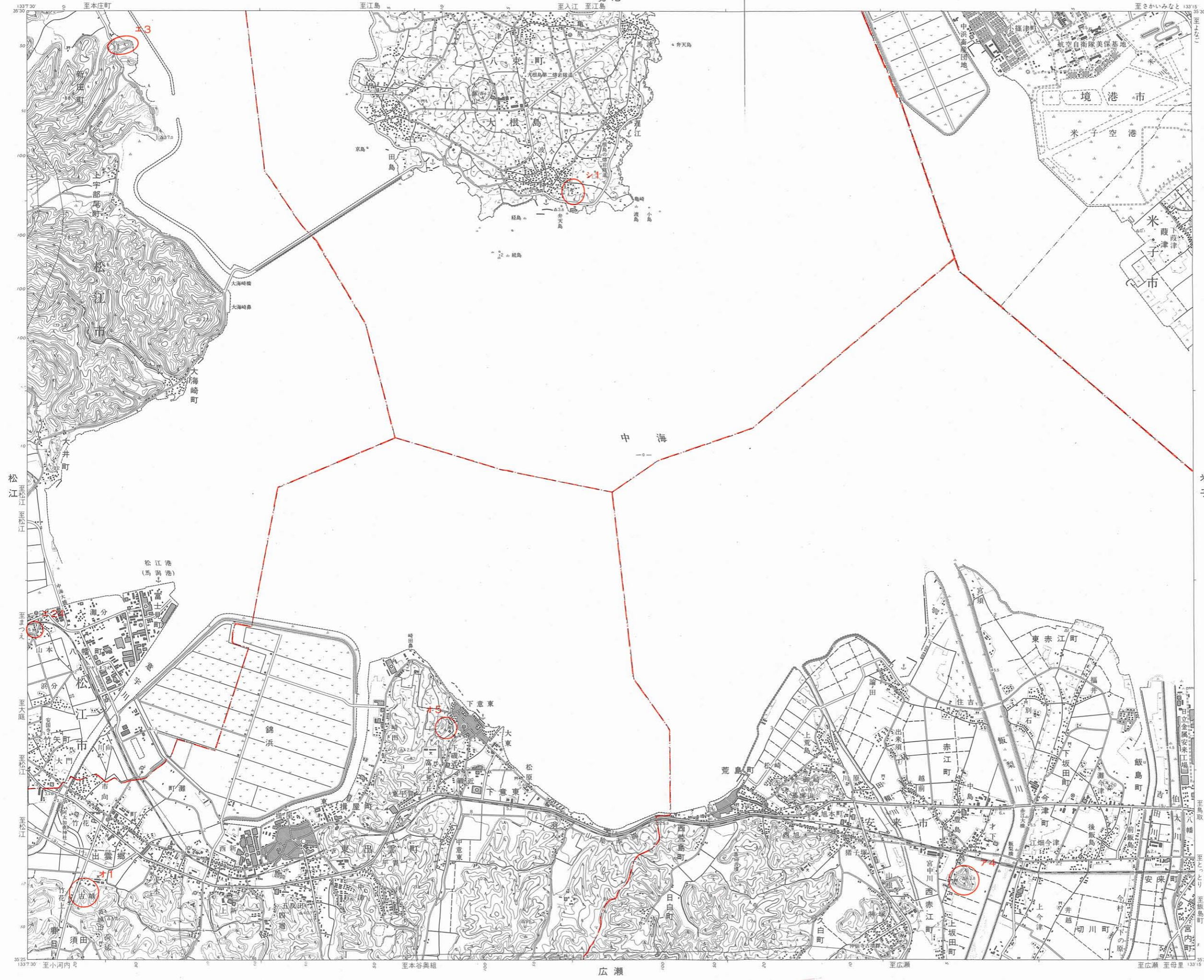
瀬崎 (12)		
加賀 (13)		美保関 (1)
松江 (14)	揖屋 (6)	米子 (2)

1:35000



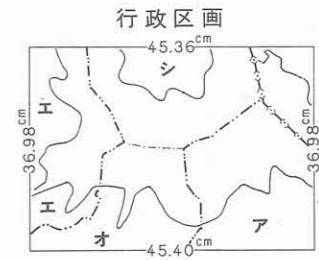


# 揖屋



## 6. 揖屋

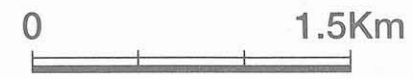
- ア. 安来市
- エ. 松江市
- オ. 八束郡東出雲町
- シ. 八束郡八束町



索引図

加賀 (13)	境港 (5)	美保関 (1)
松江 (14)		米子 (2)
玉造 (15)	広瀬 (7)	母里 (3)

1:35000

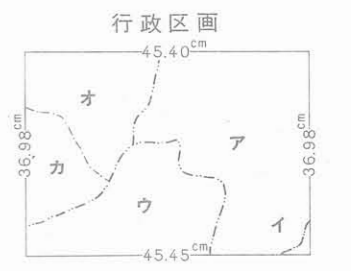




# 広瀬

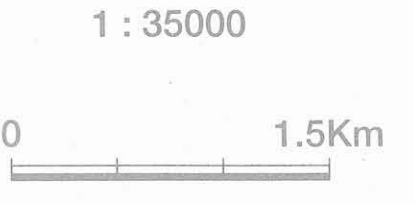
## 7. 広瀬

- ア. 安来市
- イ. 能義郡伯太町
- ウ. 能義郡広瀬町
- オ. 八束郡東出雲町
- カ. 八束郡八雲村



索引図

松江 (14)	揖屋 (6)	米子 (2)
玉造 (15)		母里 (3)
上山佐 (16)	布部 (8)	井尻 (4)

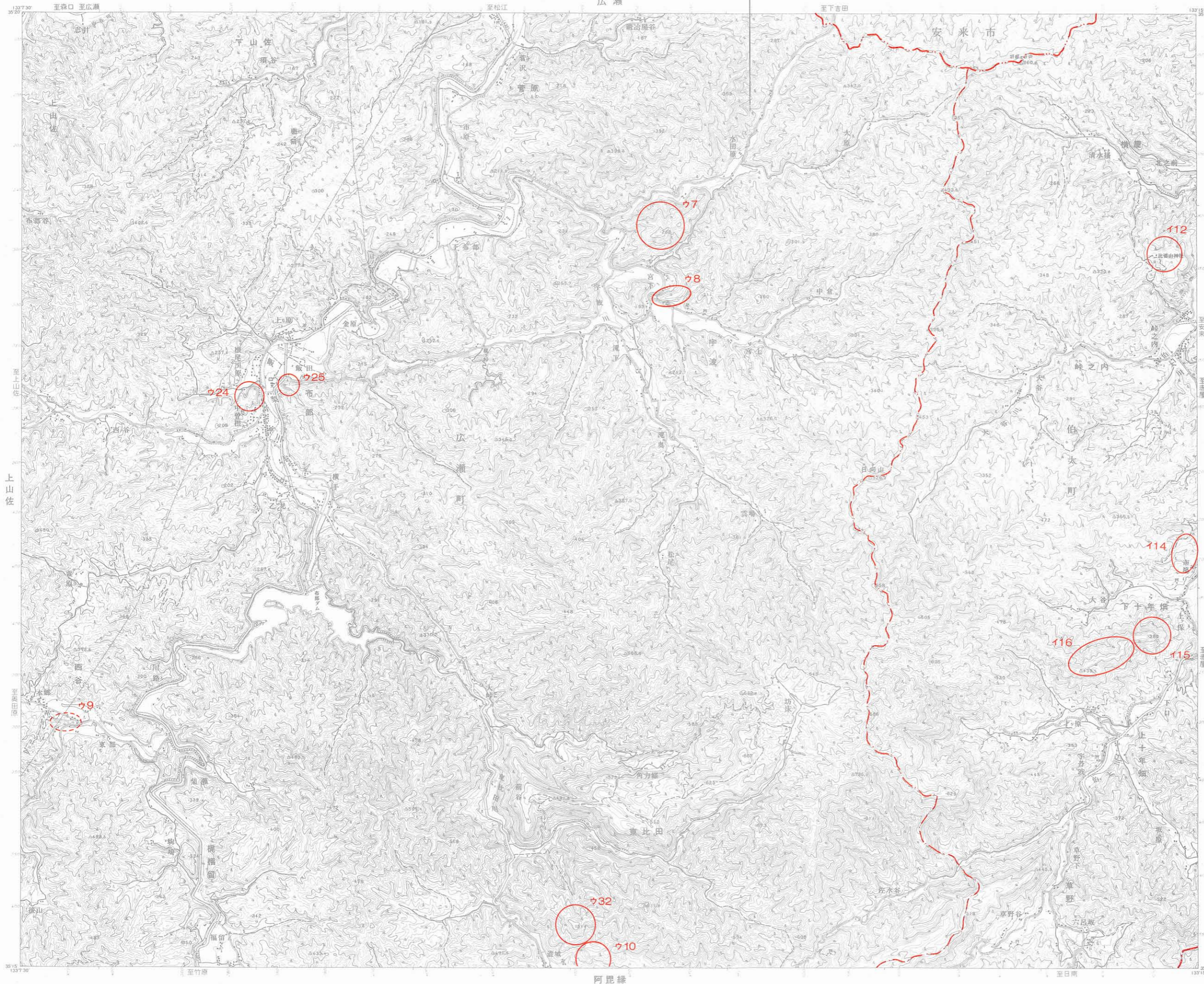




# 布 部

# 8. 布 部

- ア. 安来市
- イ. 能義郡伯太町
- ウ. 能義郡広瀬町



索引図

玉造 (15)	広瀬 (7)	母里 (3)
上山佐 (16)		井尻 (4)
横田 (17)	阿毘緑 (9)	印賀

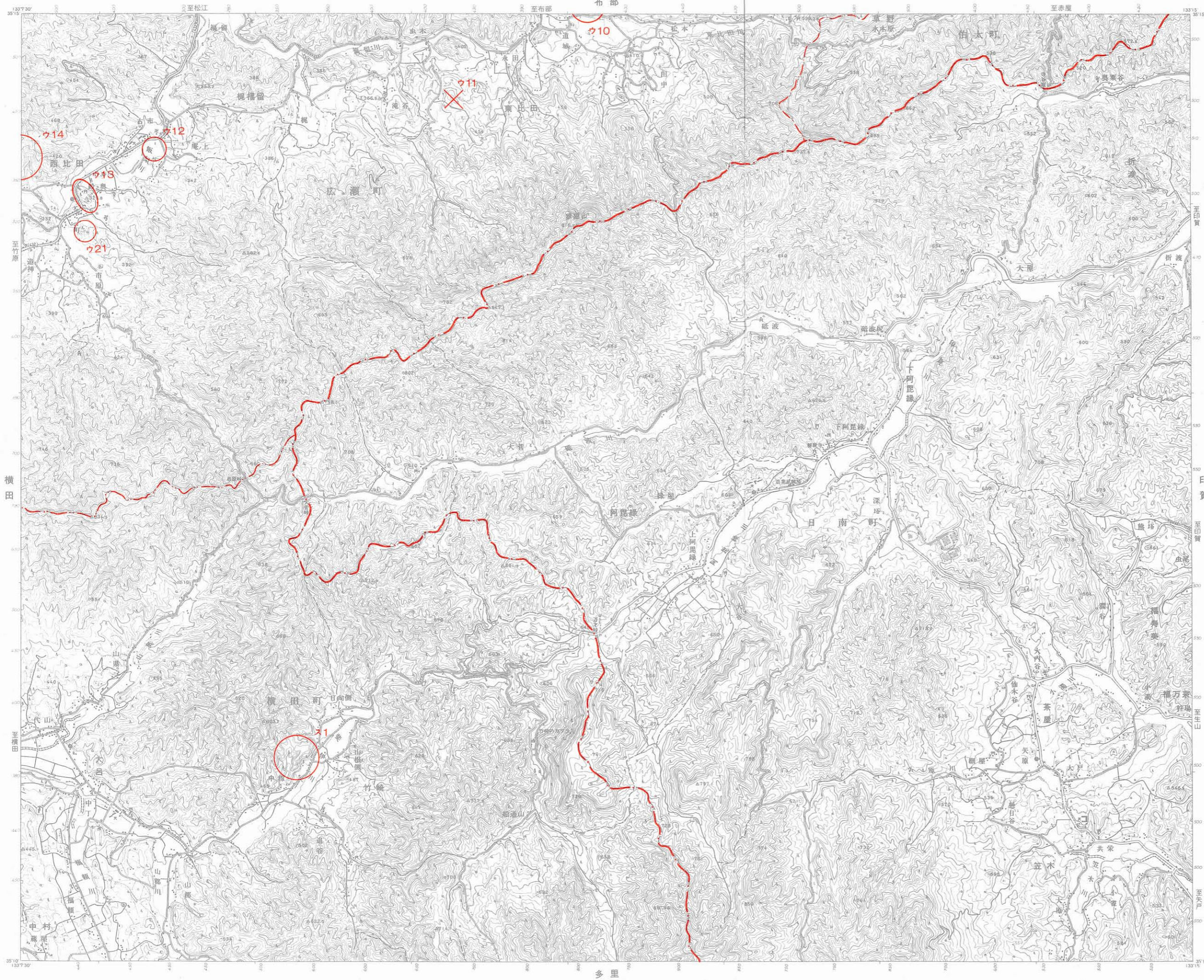
1:35000





# 阿 毘 縁

布 部



## 9. 阿毘縁

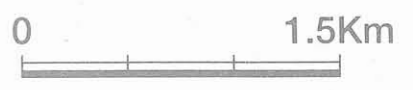
- イ. 能義郡伯太町
- ウ. 能義郡広瀬町
- ス. 仁多郡横田町



索引図

上山佐 (16)	布 部 ( 8 )	井 尻 ( 4 )
横 田 (17)		印 賀
下横田 (18)	多 里 (10)	上石見

1 : 35000

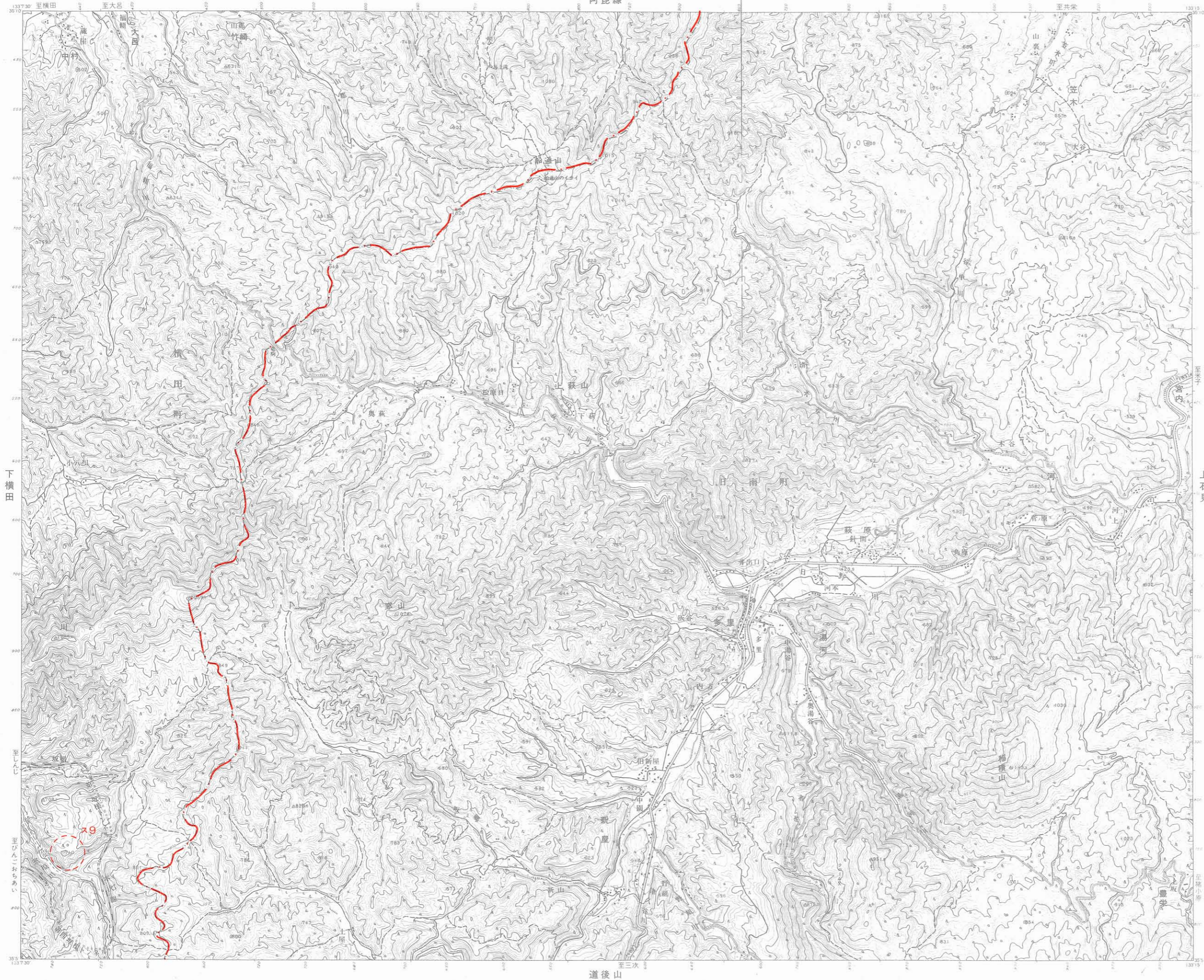




多里  
阿毘縁

10. 多里

ス. 仁多郡横田町



索引図

横田 (17)	阿毘縁 (9)	印賀
下横田 (18)		上石見
比婆山 (19)	道後山 (11)	油野

1:35000



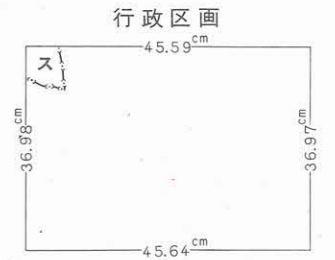


# 道後山

多里

# 11. 道後山

ス.仁多郡横田町



索引図

下横田 (18)	多里 (10)	上石見
比婆山 (19)		油野
西城	小奴可	備中矢田

1:35000

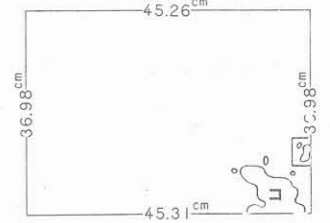




# 12. 瀬 崎

## コ. 八束郡島根町

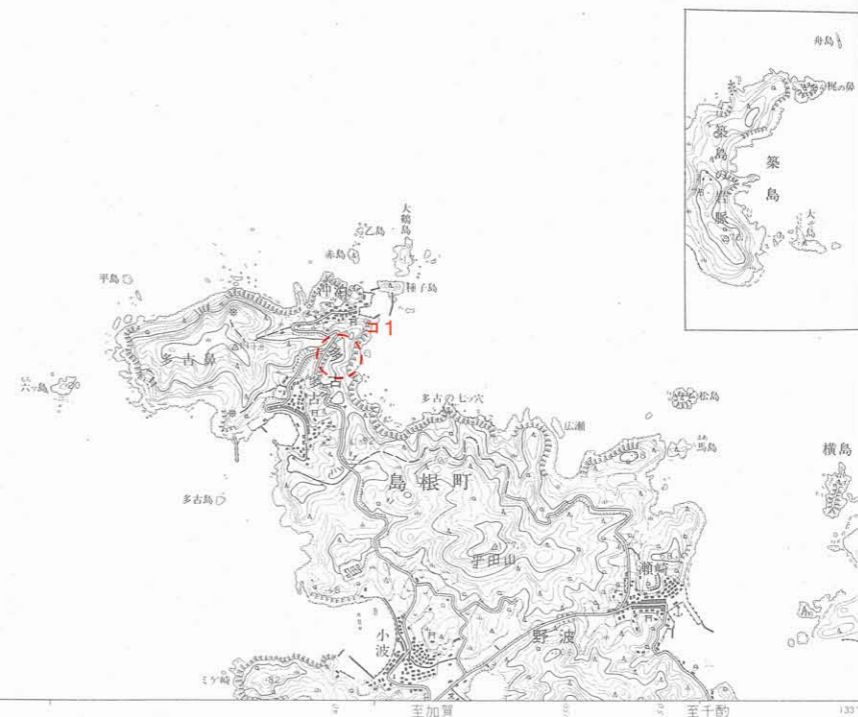
行政区画



索引図



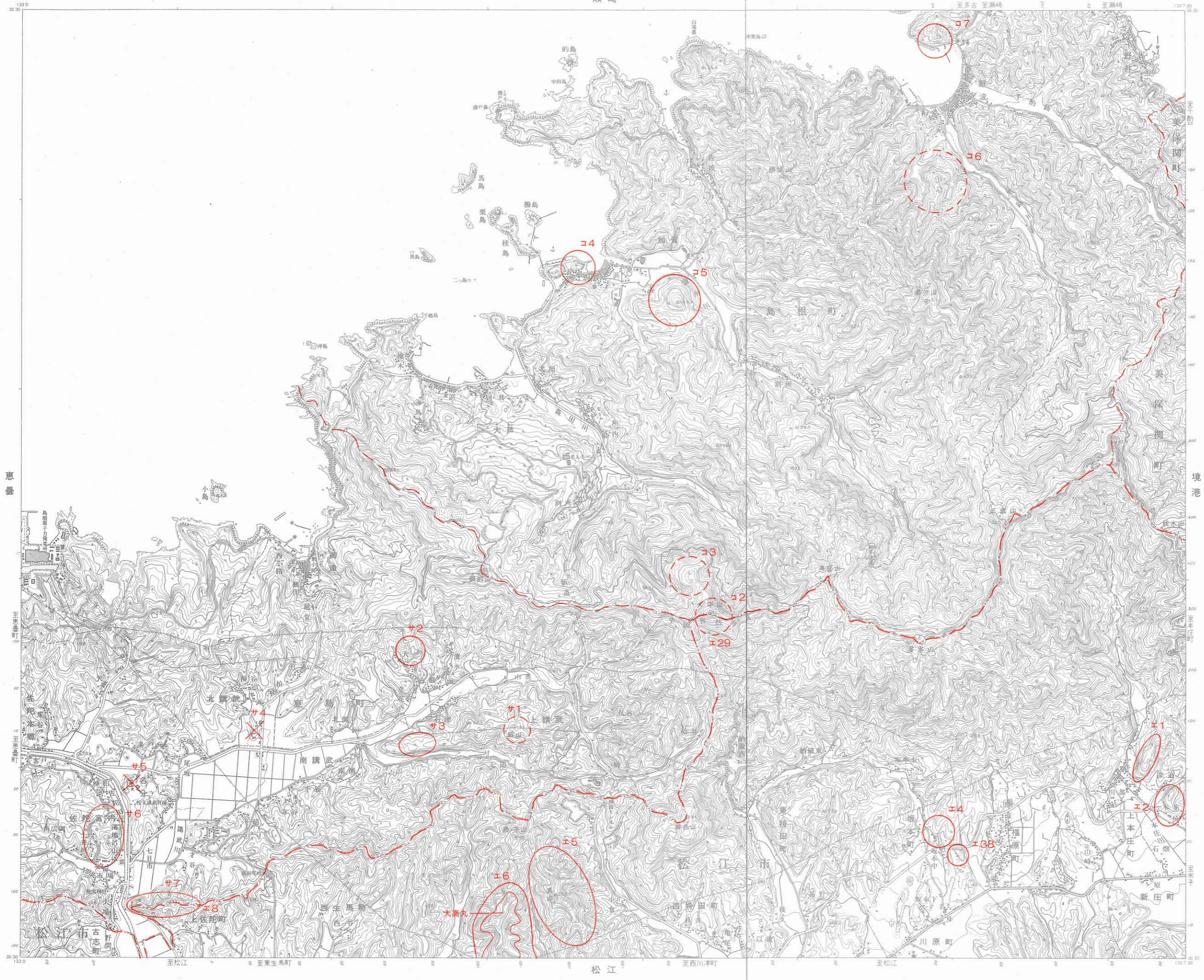
1:35000





# 13. 加賀

- 工. 松江市
- ケ. 八束郡美保関町
- コ. 八束郡島根町
- サ. 八束郡鹿島町



索引図

	瀬崎 (12)	
恵曇 (20)		境港 (5)
秋鹿 (21)	松江 (14)	揖屋 (6)

1:35000

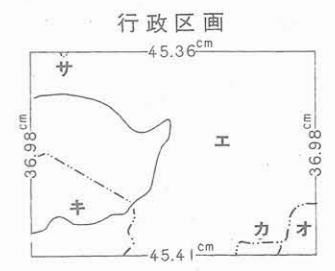
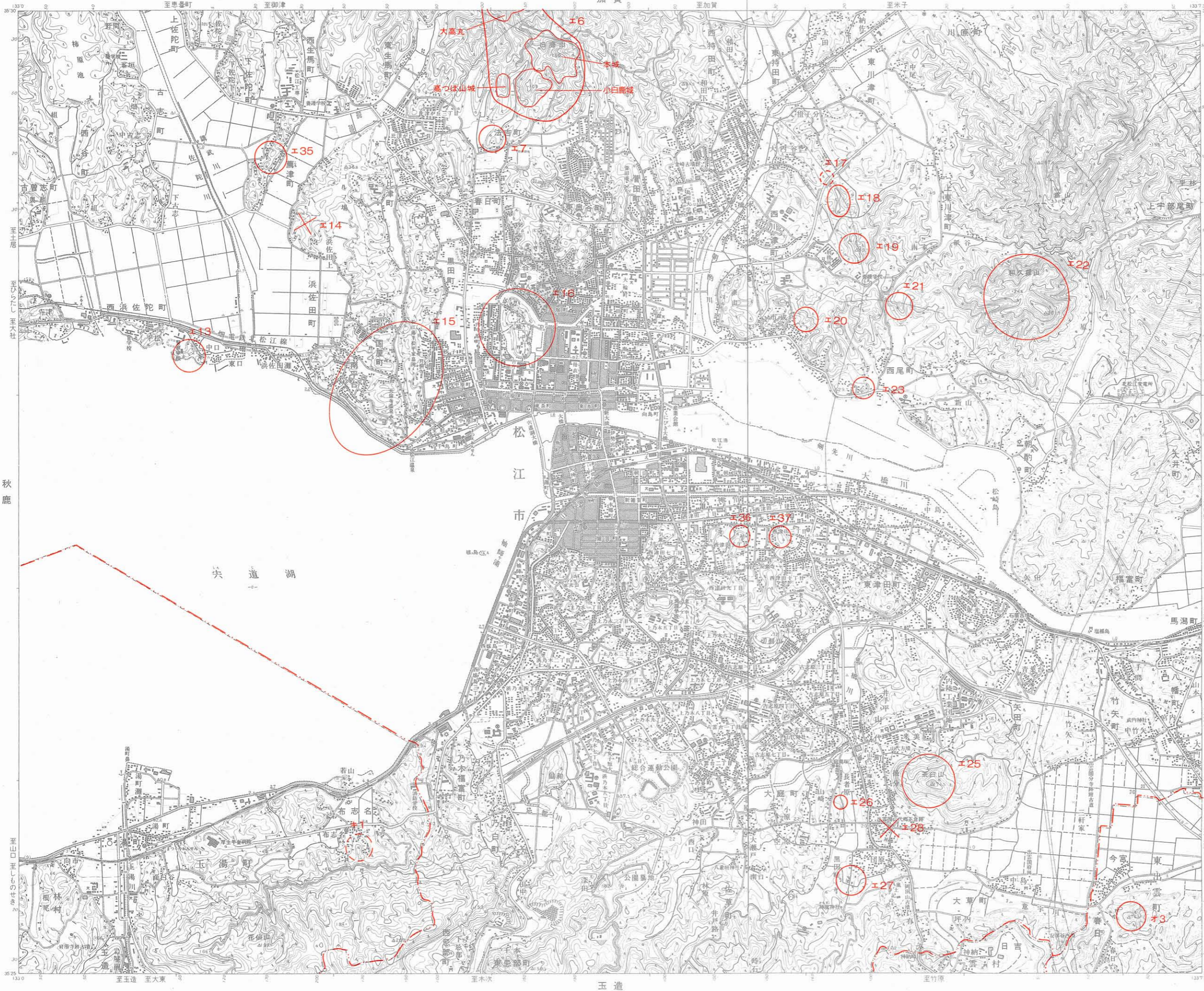




# 松江

## 14. 松江

- 工. 松江市
- 才. 八束郡東出雲町
- 力. 八束郡八雲村
- キ. 八束郡玉湯町
- サ. 八束郡鹿島町



索引図

恵曇 (20)	加賀 (13)	境港 (5)
秋鹿 (21)		揖屋 (6)
穴道 (22)	玉造 (15)	広瀬 (7)

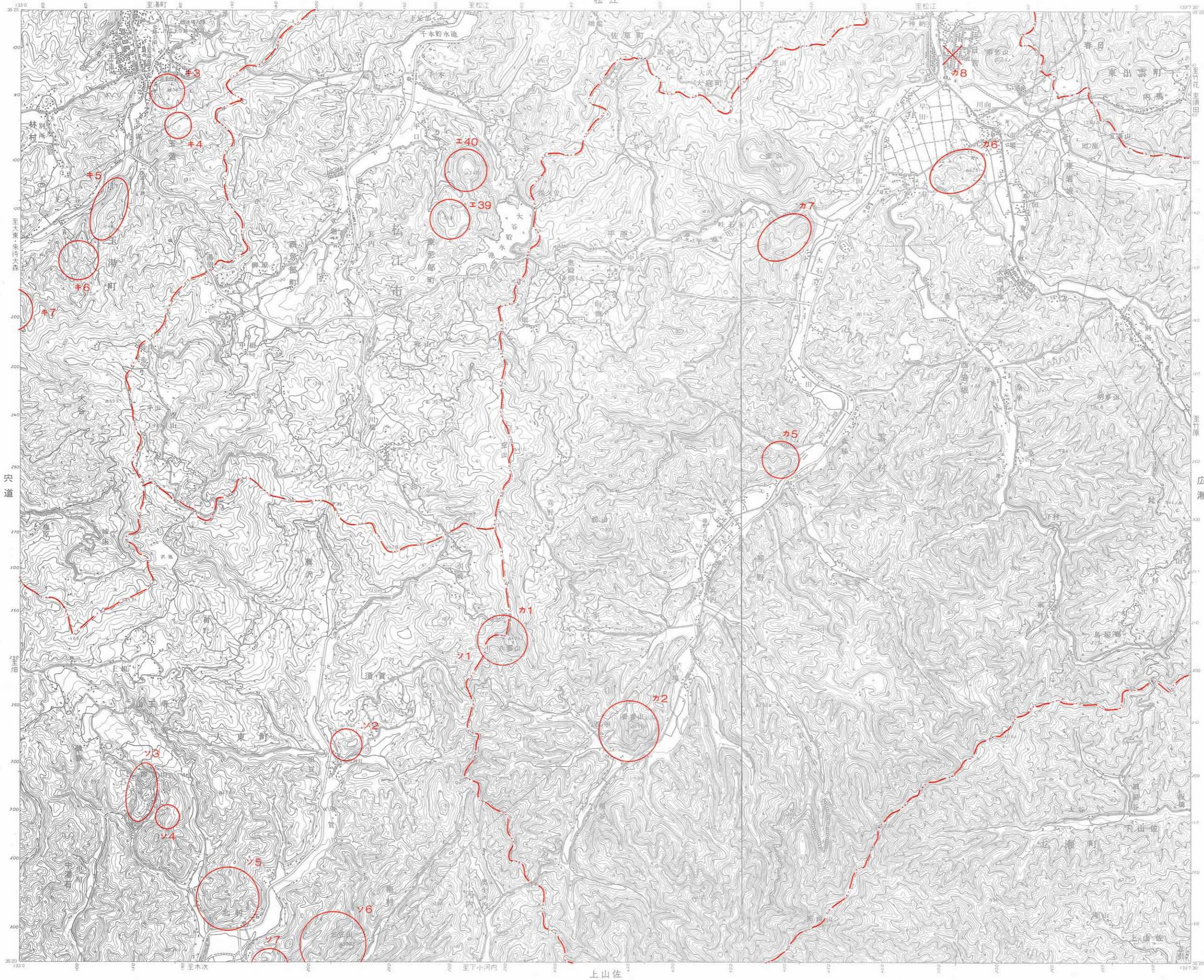
1:35000





# 15. 玉 造

- ウ. 能義郡広瀬町
- エ. 松江市
- オ. 八束郡東出雲町
- カ. 八束郡八雲村
- キ. 八束郡玉湯町
- ク. 大原郡大東町



索引図

秋鹿 (21)	松江 (14)	揖屋 (6)
穴道 (22)		広瀬 (7)
木次 (23)	上山佐 (16)	布部 (8)

1:35000



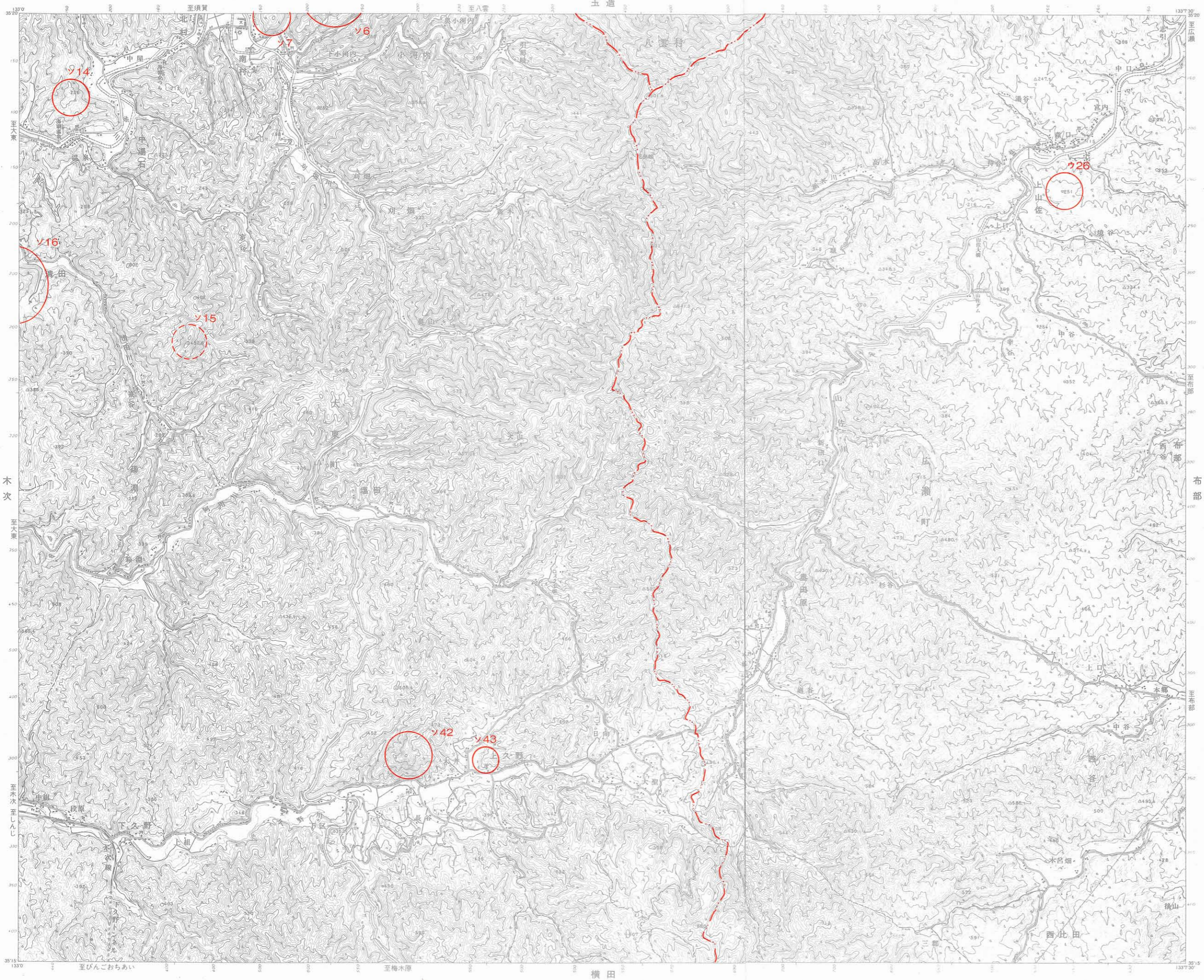


# 上山佐

玉造

## 16. 上山佐

ウ.能義郡広瀬町  
カ.八束郡八雲村  
ソ.大原郡大東町



索引図

穴道 (22)	玉造 (15)	広瀬 (7)
木次 (23)		布部 (8)
湯村 (24)	横田 (17)	阿毘縁 (9)

1:35000



木次

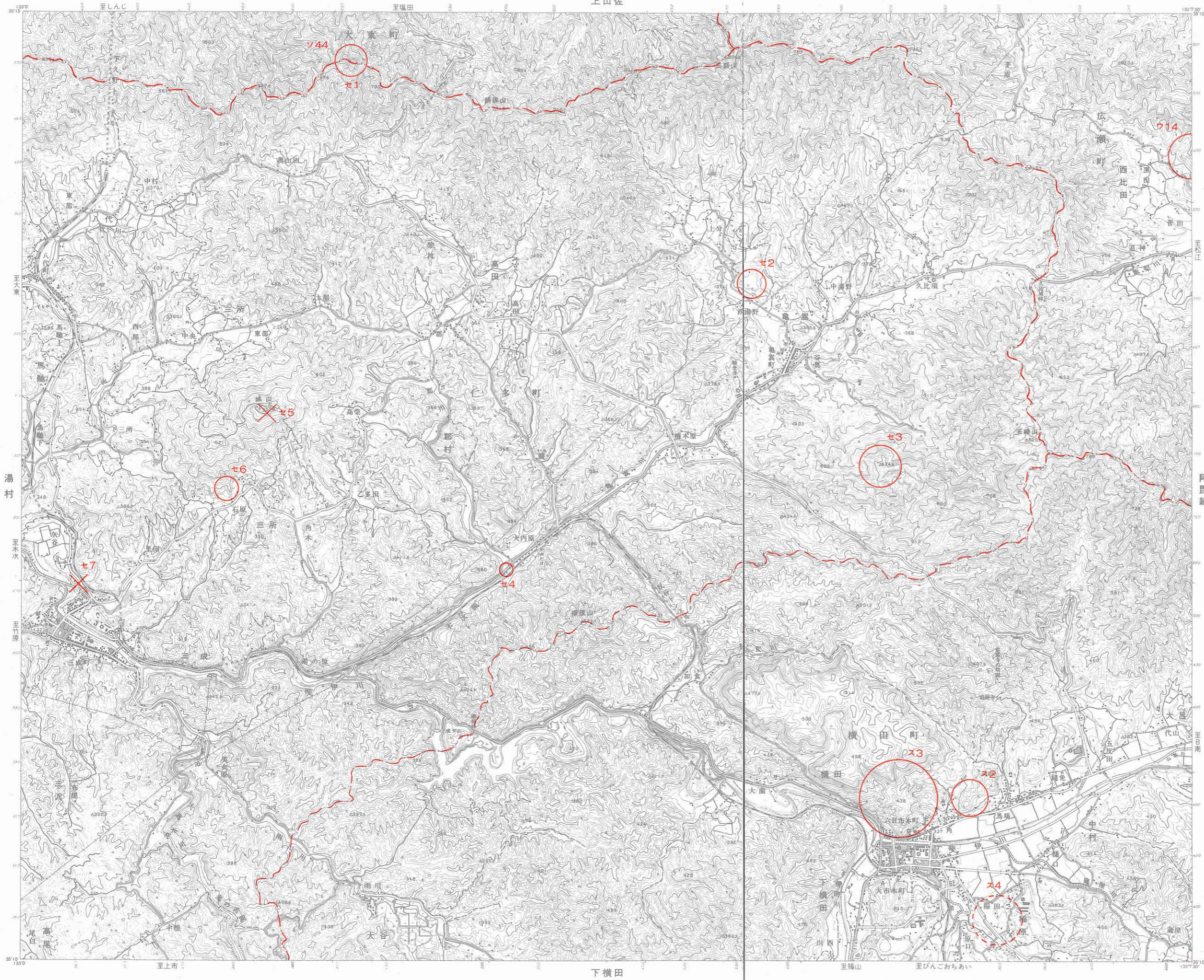
布部



# 横 田

## 17. 横 田

ウ.能義郡広瀬町  
ス.仁多郡横田町  
セ.仁多郡仁多町  
ソ.大原郡大東町



索引図

木次 (23)	上山佐 (16)	布部 (8)
湯村 (24)		阿毘縁 (9)
阿井町 (25)	下横田 (18)	多里 (10)

1:35000

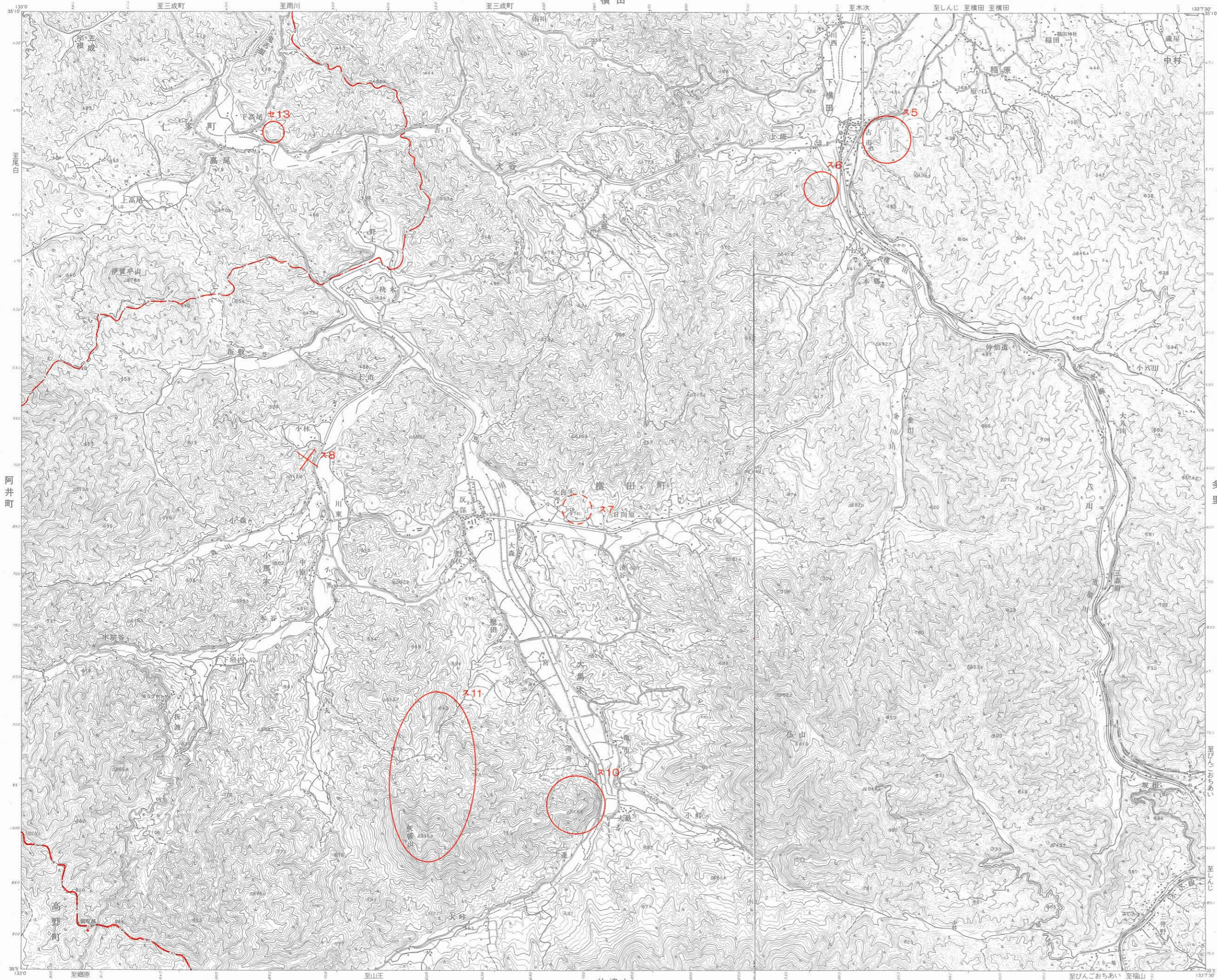




# 下横田

## 18. 下横田

ス.仁多郡横田町  
セ.仁多郡仁多町



索引図

湯村 (24)	横田 (17)	阿毘縁 (9)
阿井町 (25)		多里 (10)
比婆新市 (26)	比婆山 (19)	道後山 (11)

1:35000



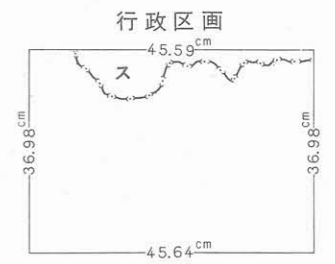


# 比 婆 山

下横田

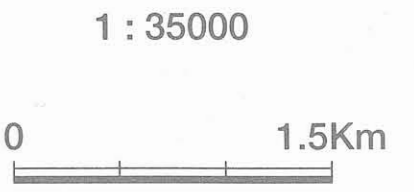
# 19. 比婆山

ス.仁多郡横田町



索引図

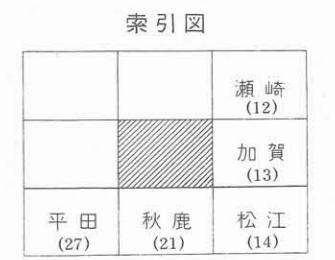
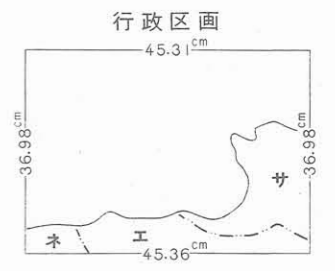
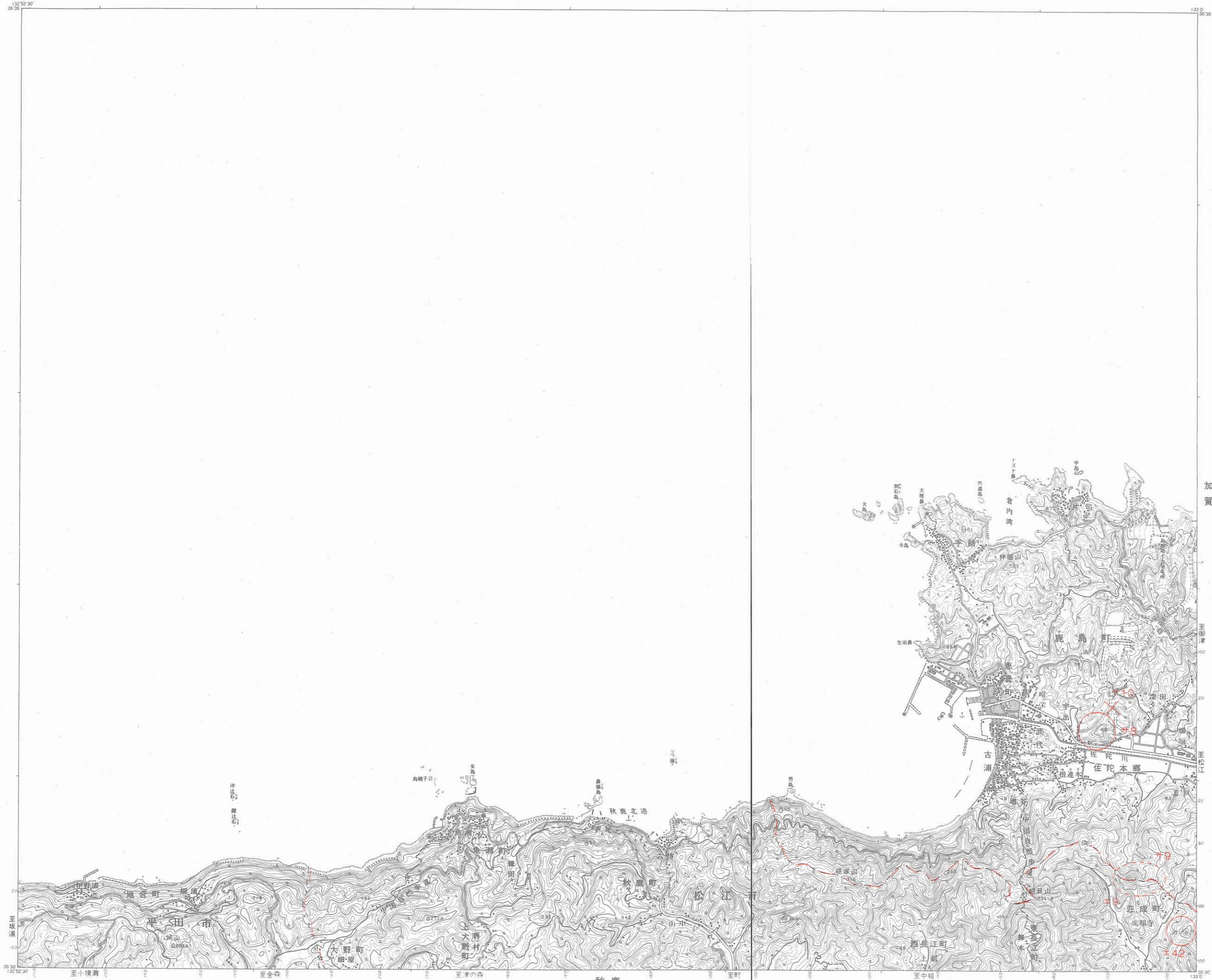
阿井町 (25)	下横田 (18)	多里 (10)
比婆新市 (26)		道後山 (11)
比和	西城	小奴可





20. 恵 曇

工. 松江市  
 サ. 八束郡鹿島町  
 ネ. 平田市



1:35000

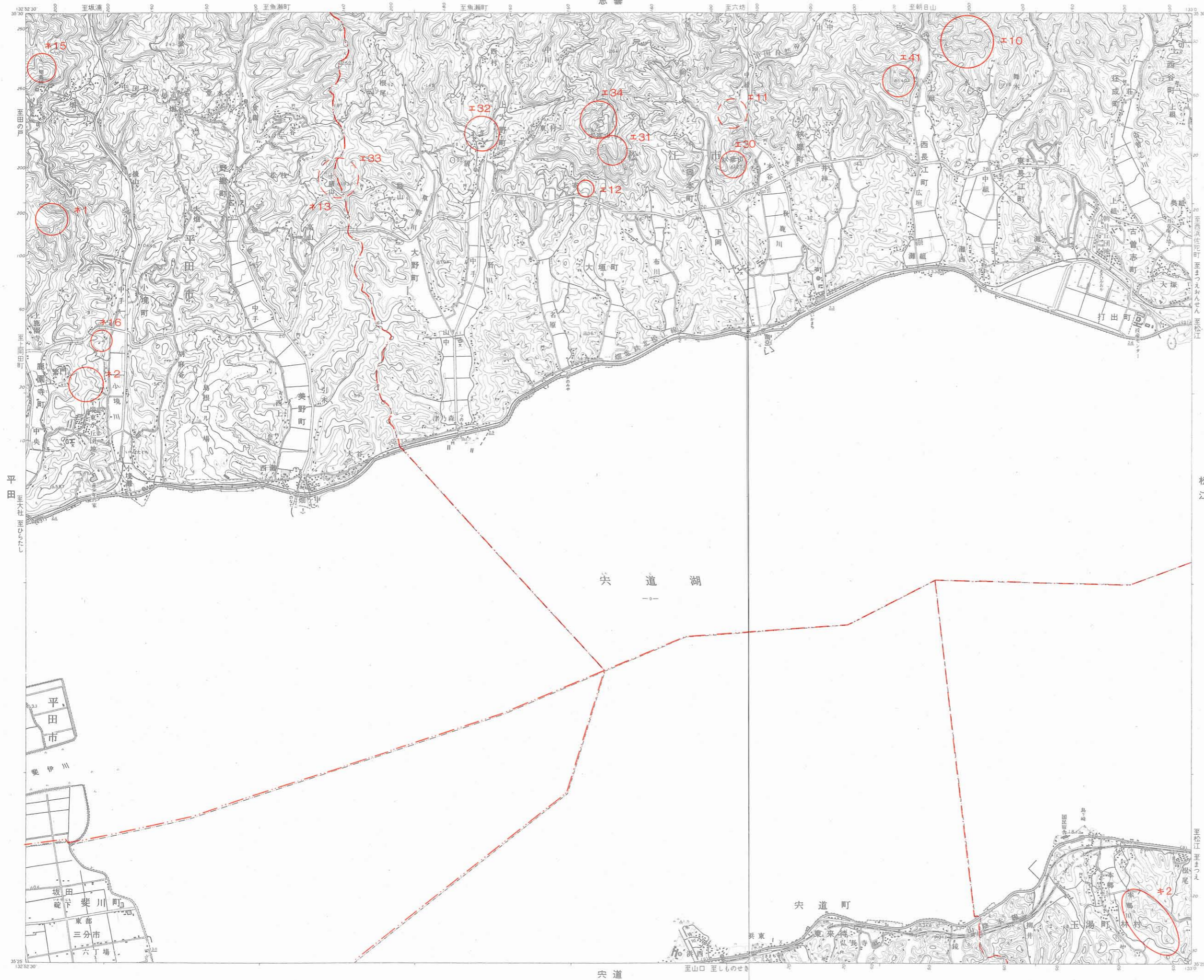




# 秋 鹿

# 21. 秋 鹿

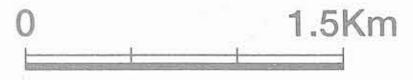
- 工. 松江市
- キ. 八束郡玉湯町
- ク. 八束郡穴道町
- ネ. 平田市
- ノ. 簸川郡斐川町



索引図

	恵曇 (20)	加賀 (13)
平田 (27)		松江 (14)
出雲今市 (28)	穴道 (22)	玉造 (15)

1:35000



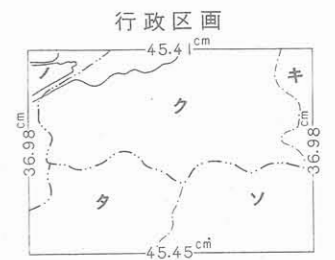
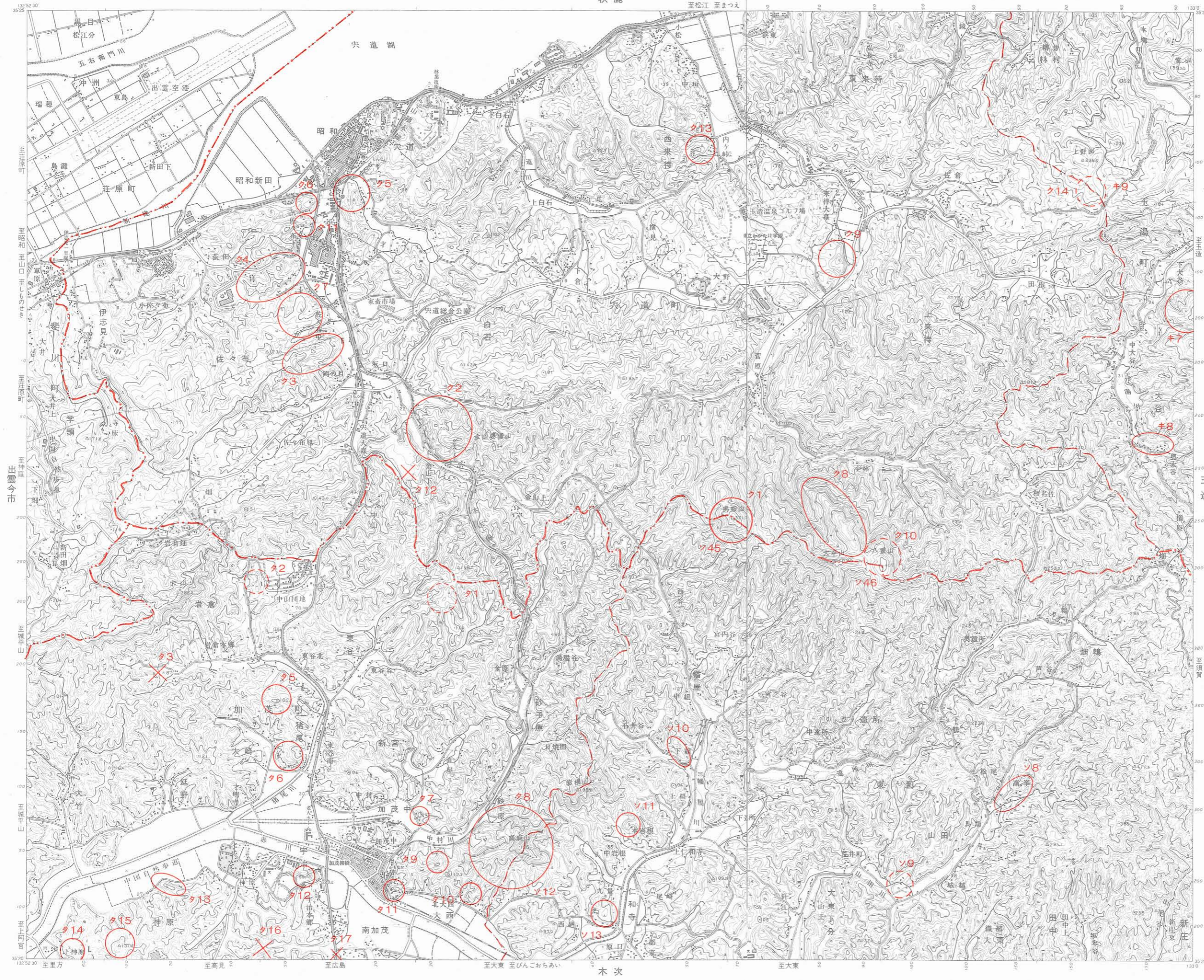


# 穴道

秋鹿 至松江 至まつえ

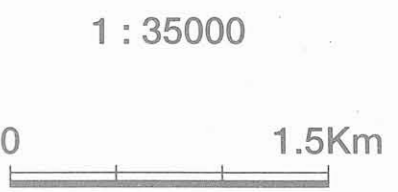
## 22. 穴道

- キ. 八束郡玉湯町
- ク. 八束郡穴道町
- ソ. 大原郡大東町
- タ. 大原郡加茂町
- ノ. 簸川郡斐川町



索引図

平田 (27)	秋鹿 (21)	松江 (14)
出雲今市 (28)		玉造 (15)
稗原 (29)	木次 (23)	上山佐 (16)

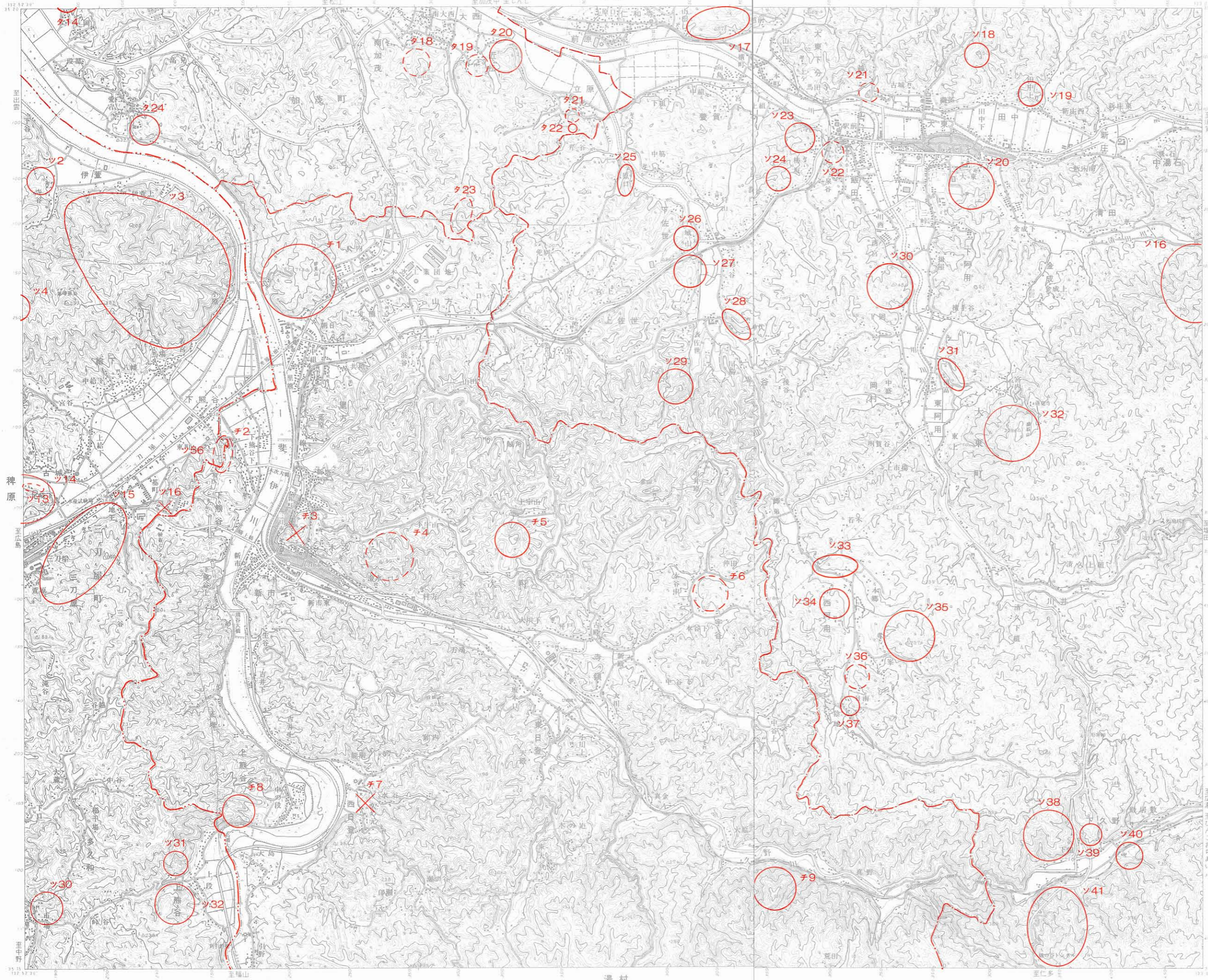




# 木次

# 23. 木次

ソ. 大原郡大東町  
 タ. 大原郡加茂町  
 チ. 大原郡木次町  
 ツ. 飯石郡三刀屋町



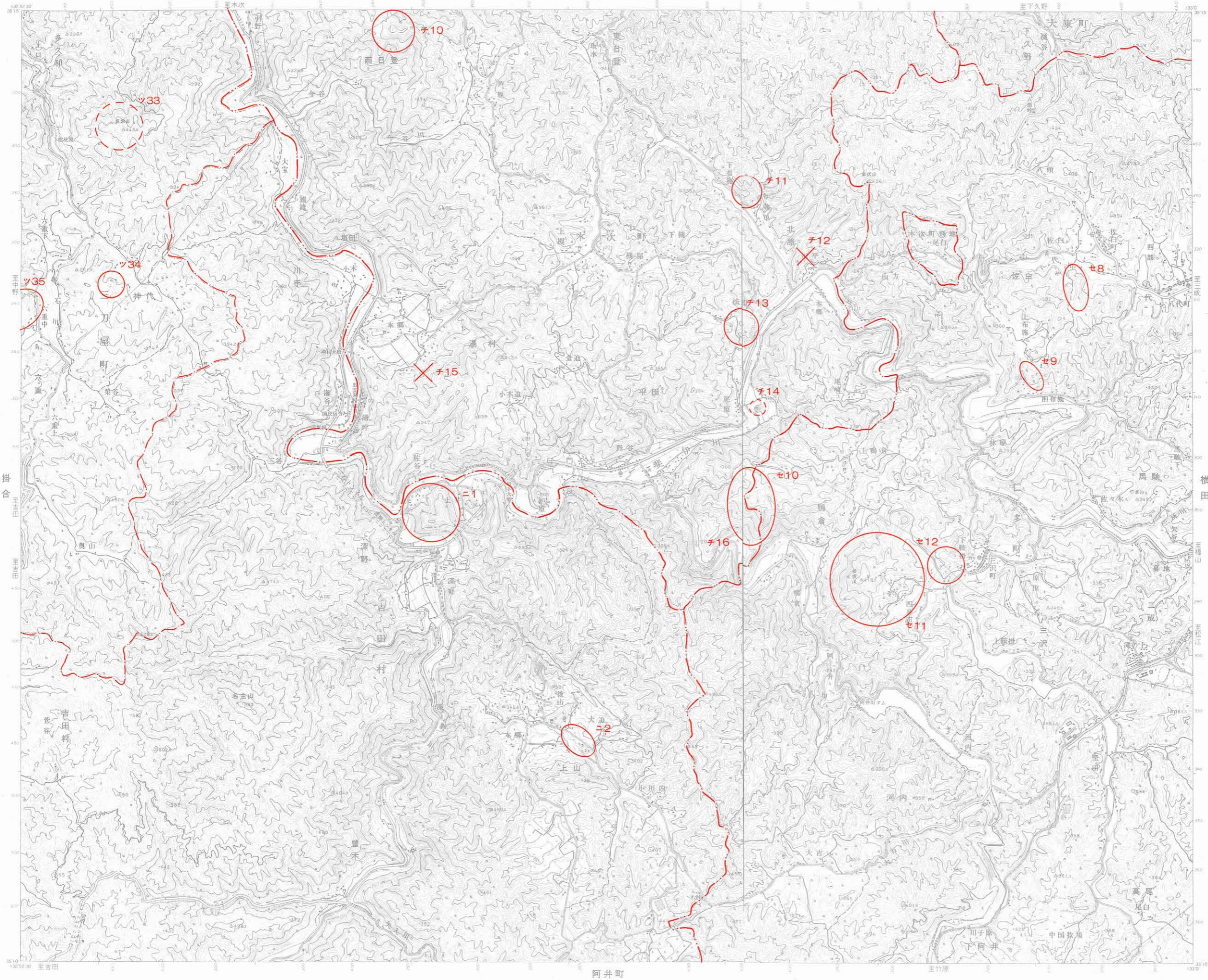
索引図

出雲今市 (28)	宍道 (22)	玉造 (15)
神原 (29)		上山佐 (16)
掛合 (30)	湯村 (24)	横田 (17)

1:35000



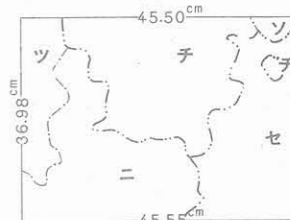




## 24. 湯 村

- セ. 仁多郡仁多町
- ソ. 大原郡大東町
- チ. 大原郡木次町
- ツ. 飯石郡三刀屋町
- ニ. 飯石郡吉田村

行政区画



索引図

稗原 (29)	木次 (23)	上山佐 (16)
掛合 (30)		横田 (17)
出雲吉田 (31)	阿井町 (25)	下横田 (18)

1:35000



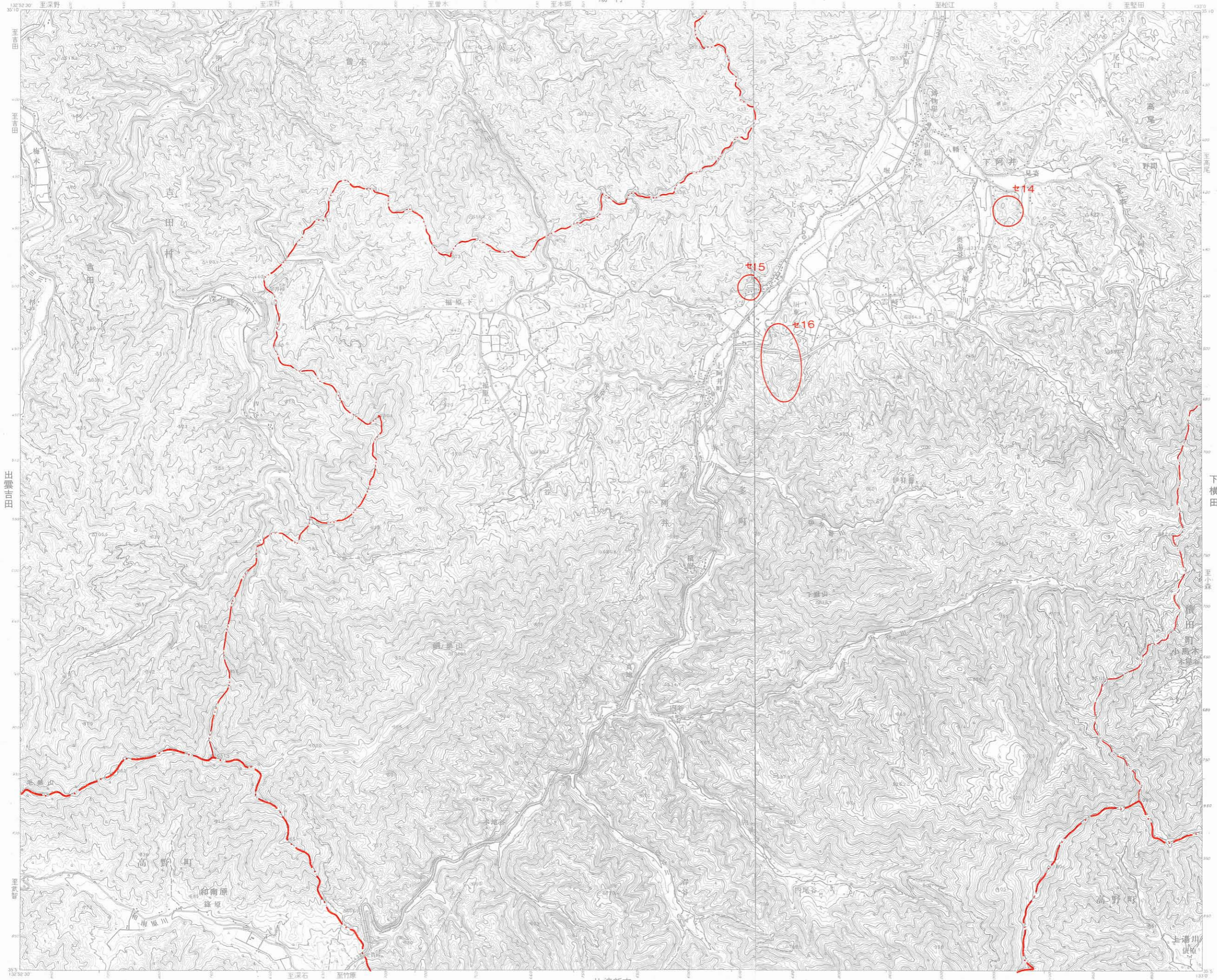


# 阿井町

湯村

## 25. 阿井町

ス.仁多郡横田町  
 セ.仁多郡仁多町  
 ニ.飯石郡吉田村



索引図

掛合 (30)	湯村 (24)	横田 (17)
出雲吉田 (31)		下横田 (18)
頓原 (32)	比婆新市 (26)	比婆山 (19)

1:35000





# 比婆新市

阿井町

## 26. 比婆新市

セ. 仁多郡仁多町



索引図

出雲吉田 (31)	阿井町 (25)	下横田 (18)
頓原 (32)		比婆山 (19)
権田 (33)	比和	西城

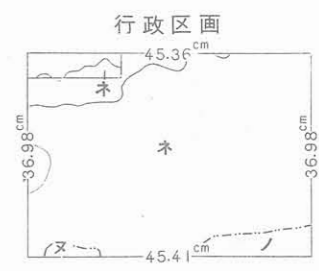
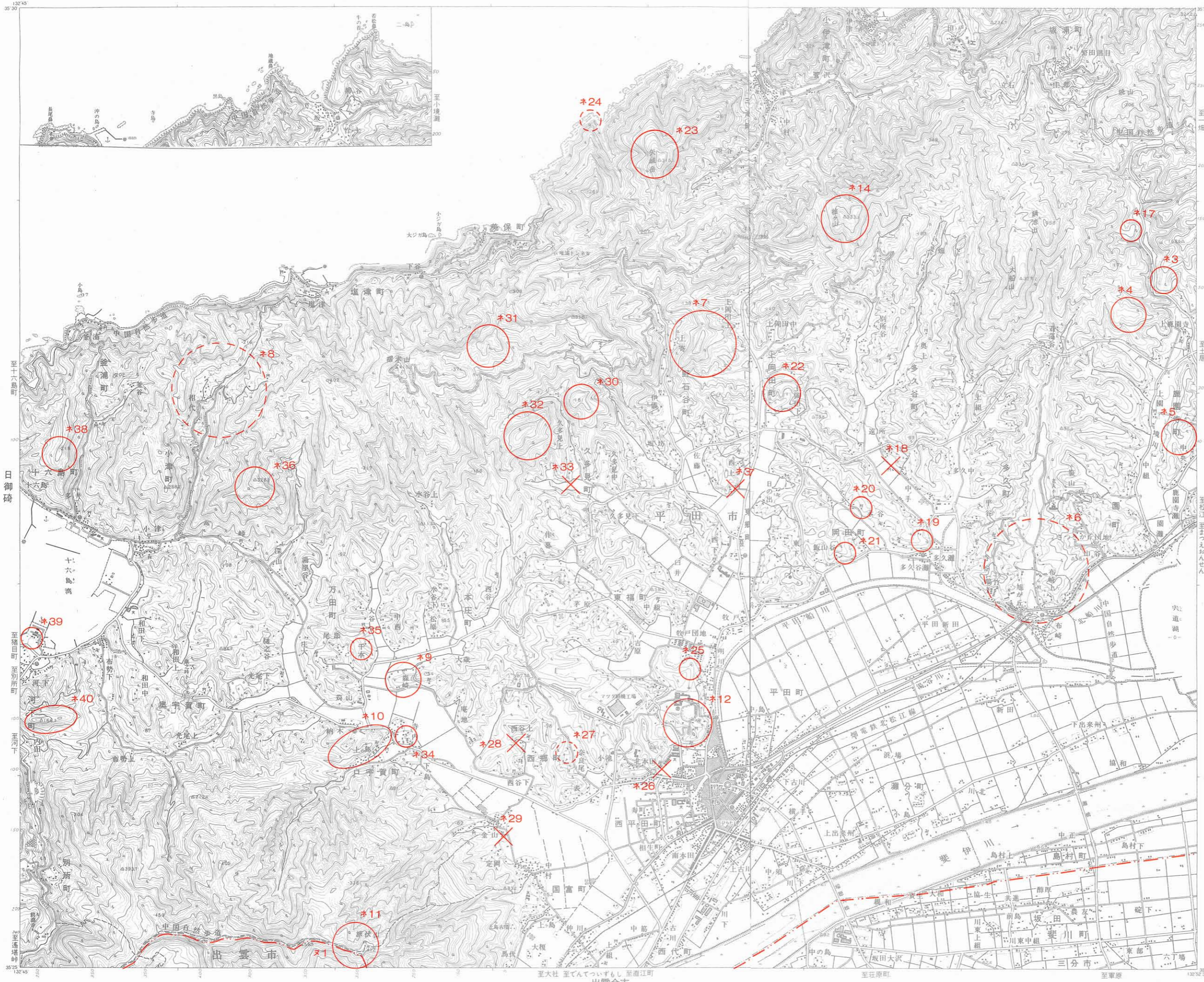
1:35000





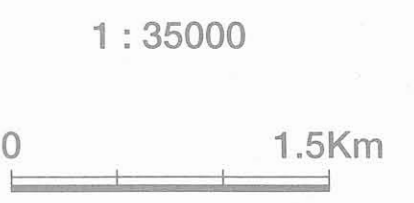
# 27. 平 田

又. 出雲市  
ネ. 平田市  
ノ. 簸川郡斐川町



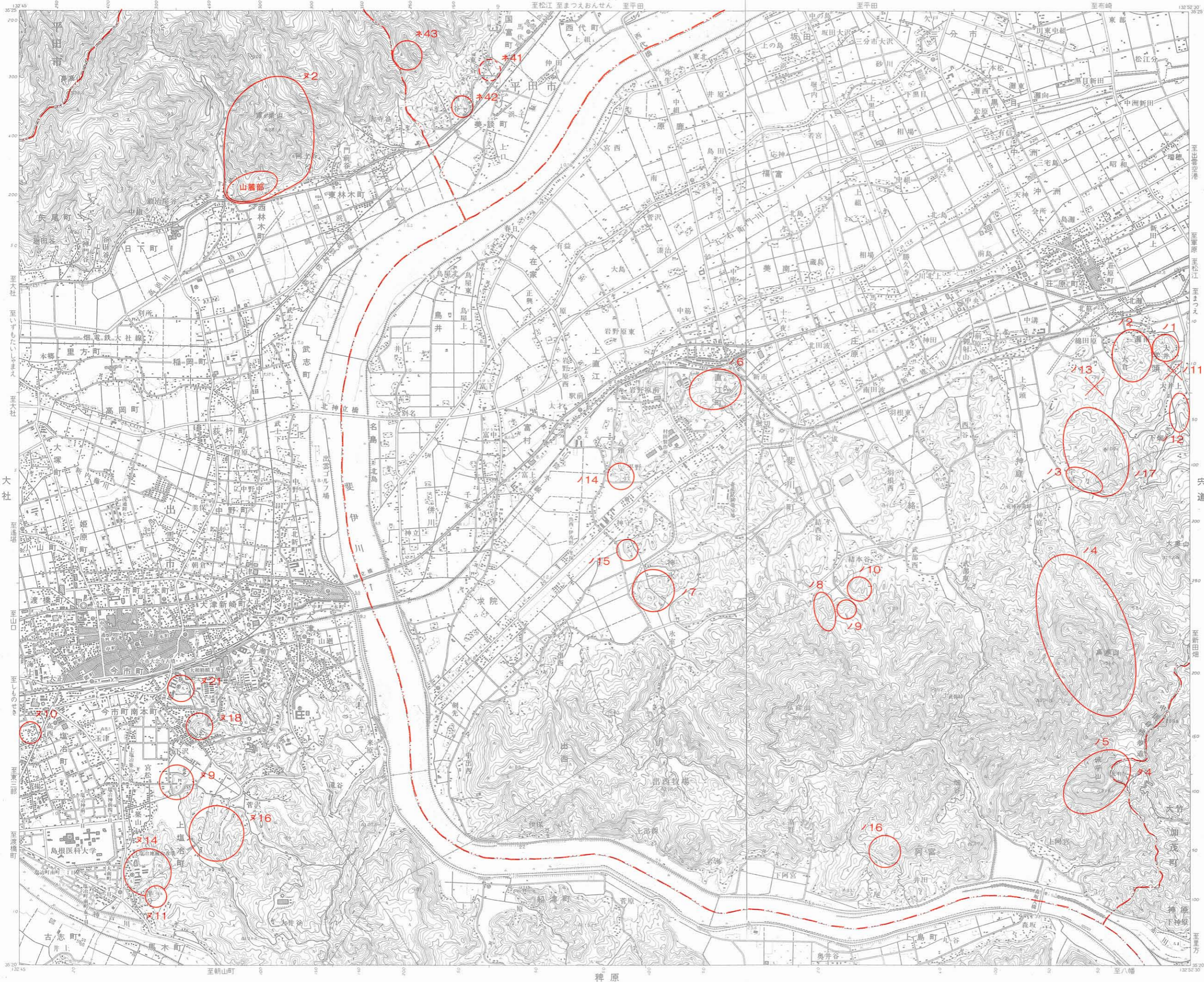
索引図

		恵曇 (20)
日御碕 (34)		秋鹿 (21)
大社 (35)	出雲今市 (28)	宍道 (22)



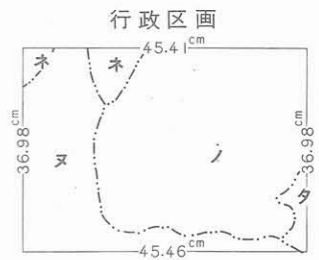


# 出雲今市



## 28. 出雲今市

夕. 大原郡加茂町  
 又. 出雲市  
 ネ. 平田市  
 ノ. 簸川郡斐川町



索引図

日御碕 (34)	平田 (27)	秋鹿 (21)
大社 (35)		宍道 (22)
神西湖 (36)	稗原 (29)	木次 (23)

1:35000



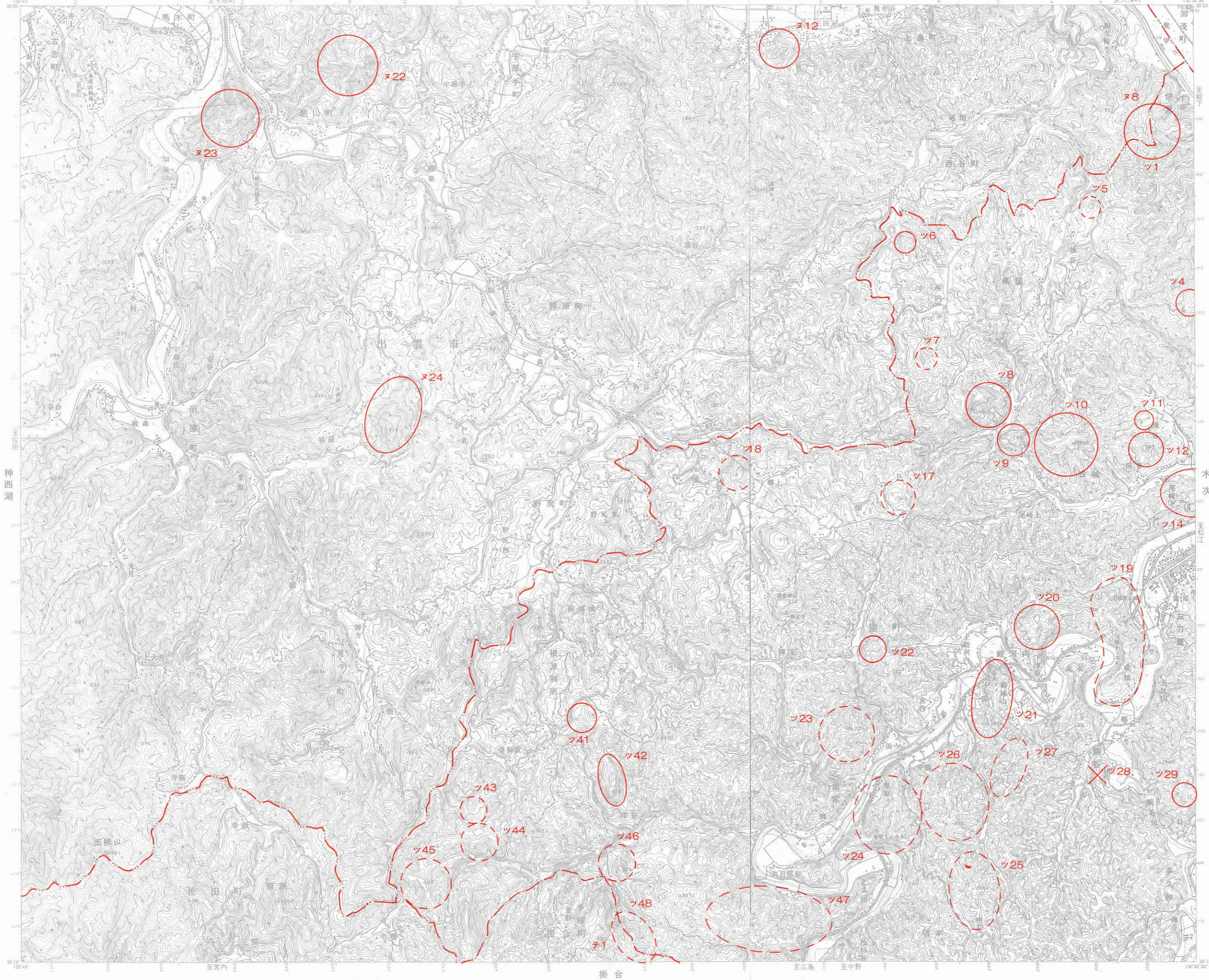


# 稗原

出雲今市

## 29. 稗原

- タ. 大原郡加茂町
- ツ. 飯石郡三刀屋町
- テ. 飯石郡掛合町
- ヌ. 出雲市
- ヒ. 簸川郡佐田町



索引図

大社 (35)	出雲今市 (28)	宍道 (22)
神西湖 (36)		木次 (23)
反辺 (37)	掛合 (30)	湯村 (24)

1:35000





30. 掛合

ツ. 飯石郡三刀屋町  
 テ. 飯石郡掛合町  
 ニ. 飯石郡吉田村  
 ヒ. 簸川郡佐田町



索引図

神西湖 (36)	稗原 (29)	木次 (23)
反辺 (37)		湯村 (24)
三瓶山東部 (38)	出雲吉田 (31)	阿井町 (25)

1:35000

